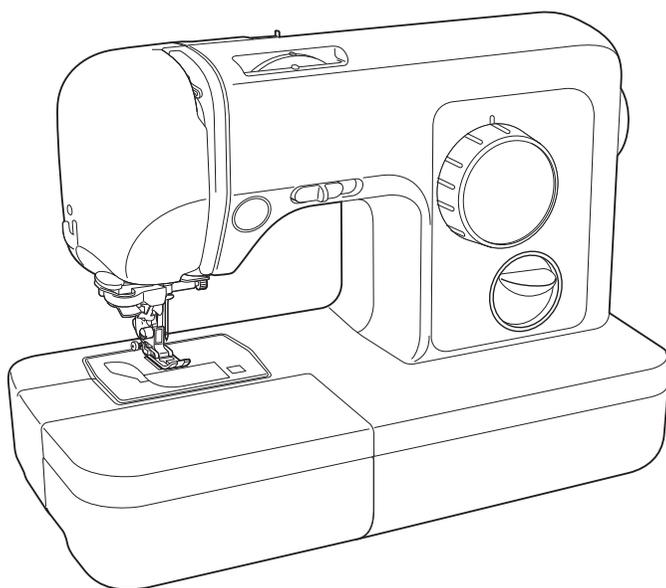


brother

電子ミシン
取扱説明書

ELU50/ELU58 シリーズ



- ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

この度は当社の商品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
 お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、この取扱説明書をご覧になり、各機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ末永くご愛用ください。
 また、お読みになった後は保証書とともにお使いになられる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書およびミシン本体に使われている表示や絵文字は製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
 その表示や意味は次のとおりです。

 警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を表しています。
 注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

- | | | |
|---|---|--|
|  特定しない禁止事項 |  特定しない義務行為 |  特定しない危険通告 |
|  手を針に近づけてはいけません |  電源プラグを抜いてください |  感電の危険があります |
|  分解してはいけません |  水に濡らしてはいけません |  火災の危険があります |

この製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

 警告	
  	● 必ず一般家庭用電源 AC100V の電源で使用してください。 それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
  	● 以下のようなときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注 意

  	<ul style="list-style-type: none">● 延長コードや分岐コンセントを使用したり、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
 	<ul style="list-style-type: none">● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
 	<ul style="list-style-type: none">● 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
	<ul style="list-style-type: none">● 傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
 	<ul style="list-style-type: none">● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
  	<ul style="list-style-type: none">● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重いものを載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
 	<ul style="list-style-type: none">● 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
  	<ul style="list-style-type: none">● 電源コードは付属のものを使用してください。他のコードを使用すると、感電や発熱による火災の原因となります。
  	<ul style="list-style-type: none">● 直射日光の当たるところや、ストーブやアイロンなど、火の気のある物のそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0°C ~ 40°C です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
 	<ul style="list-style-type: none">● 火の気のあるもののそばでは使用しないでください。（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）火災の原因となります。

⚠ 注 意

	<ul style="list-style-type: none">● 野外でのご使用は避けてください。 雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。 また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	<ul style="list-style-type: none">● 以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。<ul style="list-style-type: none">・ 温度が著しく高くなる場所・ 温度が著しく低くなる場所・ 急激に温度が変化する場所・ 湿気、湯気の多い場所・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所・ 屋外や直射日光の当たる場所・ ほこり、油煙の多い場所
 	<ul style="list-style-type: none">● スプレー製品などをお使いの部屋ではご使用にならないでください。 スプレーへの引火によるやけど・火災の原因となります。
 	<ul style="list-style-type: none">● ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。 バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
 	<ul style="list-style-type: none">● ミシン本体の換気口をふさがないでください。 換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりをためないようにしてください。 火災の原因となります。
   	<ul style="list-style-type: none">● ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
  	<ul style="list-style-type: none">● ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。 高圧部に触れて感電するおそれがあります。 万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
 	<ul style="list-style-type: none">● ミシン本体の重さは約 4.2kg あります。 ミシン本体を持ち運ぶ際は、急激または不用意な動作をしないでください。 腰やひざを痛める原因となります。

⚠ 注 意

	<ul style="list-style-type: none">● ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品をご使用ください。他の部品を使うと、ケガ・故障の原因となります。
  	<ul style="list-style-type: none">● お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。
 	<ul style="list-style-type: none">● 取扱説明書に記載されている整備を行うときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。電源プラグを抜かずに整備を行うと、ケガ・感電の原因となります。
	<ul style="list-style-type: none">● ミシン本体は、必ず取っ手を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたり、すべって落としたりして、ケガの原因となります。
	<ul style="list-style-type: none">● <u>ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針・プーリー・てんびんなど動いているすべての部品に手を近づけないでください。</u>ケガの原因となります。
 	<ul style="list-style-type: none">● リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	<ul style="list-style-type: none">● 針と押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。ケガや針折れの原因となります。
	<ul style="list-style-type: none">● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
 	<ul style="list-style-type: none">● 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

! 注 意

  	<ul style="list-style-type: none"> ● 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 お客様による修理は危険ですから、絶対にしないでください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
 	<ul style="list-style-type: none"> ● お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分ご注意ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>針の下に指などを入れしないでください。ケガをするおそれがあります。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示にしたがって正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● フットコントローラーの上に物を置かないでください。 ケガ・故障の原因となります。（フットコントローラーは別売です。）

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。海外では使用できません。

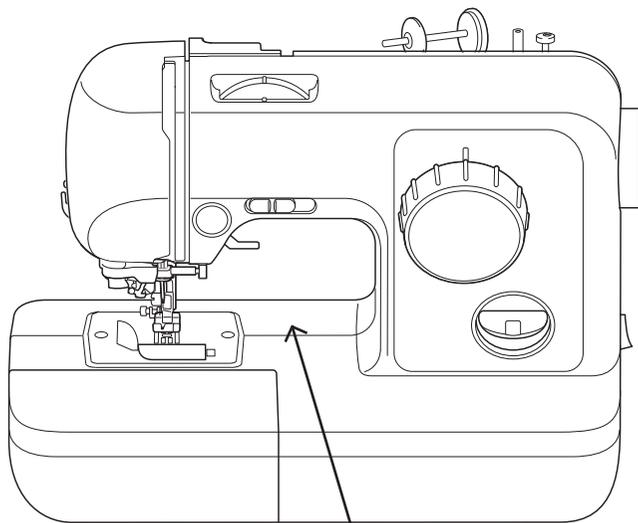
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.

職業用としてご使用になられた場合の保証はいたしかねますのでご了承ください。

- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容を許可なく無断で複製することは、禁じられておりますのでご了承ください。
- 本書の内容を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。

警告ラベルについて

ミシンには下記の警告ラベルが貼られています。
警告ラベルの注意事項を守って作業を行ってください。



ラベルの場所

目次

はじめに

付属品を確認してください	2
別売品	2
各部の名前	3
補助テーブルの取り外し・取り付け	4
アクセサリボックス（おどろぐ BOX）の開け方・閉め方	4

ぬう前の準備

ミシンの電源を入れる	5
フットコントローラー（別売）の使い方	6
上糸と下糸の準備	7
下糸を巻く	7
下糸をセットする	11
上糸を通す	12
上糸を針に通す（糸通し装置を使う）	14
模様の選び方	15
このミシンでぬえる模様	15
針を交換する	16
布地と糸の種類による針の使い分け	17
押えを交換する	17

ぬってみましょう

基本のぬい方	18
返しぬいをする	19
筒ものをぬう（フリーアームにする）	19
糸調子を調節する	20
上手にぬうコツ	20
ぬう方向を変える	20
カーブをぬう	21
厚い布地をぬう	21
薄い布地をぬう	22
面ファスナー（マジックテープ®）をぬう	22

いろいろなぬいかた

ボタン穴かがりをする	23
ぬい目長さの調節	24
布端を始末する（たちめかがり）	25
すそ上げをする（まつりぬい）	26
ファスナーを付ける	28
下糸を引き出してからぬう	29

お手入れ

本体表面の汚れの掃除	30
かまの掃除	30
ミシンの動作を確認する	32

困ったときは

よくあるトラブルと対処方法	33
上糸がつる	33
布裏で糸がからまる	34
糸調子が合わない	35
布がミシンに入り込んで取れない	36
困ったとき一覧表	38
ぬう前の準備	38
ぬっているとき	38
仕上がり	40
電子音について	41

本体仕様

仕様表	42
-----	----

製品の保管について

注油に関して	43
ミシンを保管するときのご注意	43

はじめに

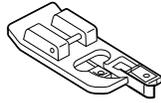
付属品を確認してください ●付属品は、必ず本機専用付属品をご使用ください。

付属品が全部そろっているかお確かめください。

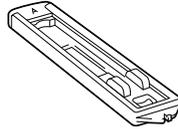
付属品が足りないときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



ジグザグ押え< J >
押え固定ピンは ELU58 シリーズに付いていますが、ELU50 シリーズには付いていません。
(P.21 参照) (※ 1)



たちめかがり
押え< G >
(P.25 参照)



ボタン穴かがり
押え< A >
(P.23 参照)



まつりぬい押え< L >
(P.27 参照)



ネジ回し



糸こま押え (大)



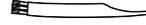
糸こま押え (中)
(※ 1)



ボビン (3 個)
(※ 1, 2)



リッパー
(P.24 参照)



ミシンブラシ
(P.31 参照)



ミシン針
(P.16, 17 参照)

(黄 針…# 11 2本
赤 針…# 14 2本
緑 針…# 16 1本)



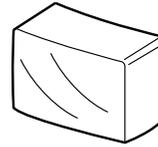
電源コード (P.5 参照)



取扱説明書 (本書)



かんたん操作ガイド
※下糸・上糸の準備を
確認できます。



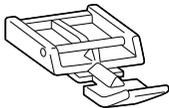
ミシンカバー

※ 1 ジグザグ押え< J >、糸こま押え (中)、ボビン 1 個は購入時にミシンに取り付けてあります。

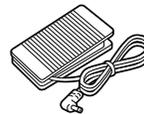
※ 2 ボビンは必ず専用ボビンをご使用ください。(モデル名：B051…5 個セット)

別売品

別売品として次の製品を用意しています。お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にお問い合わせください。

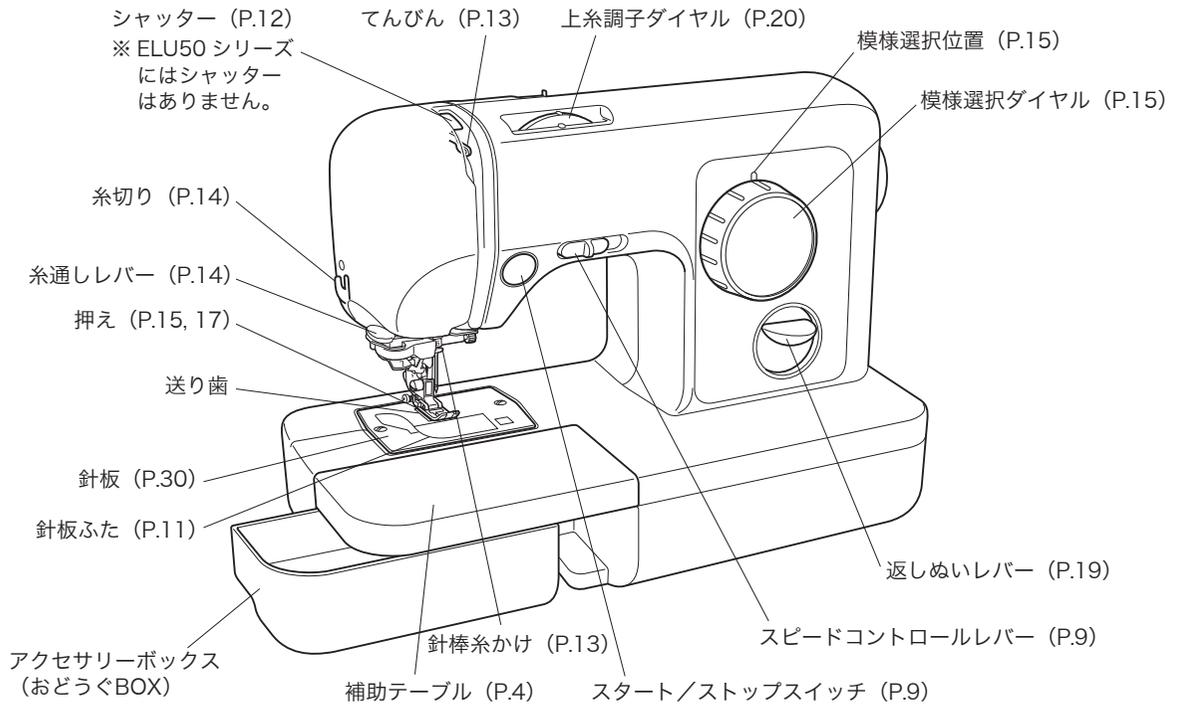


片押え< I > (P.28 参照)
モデル名：F064J

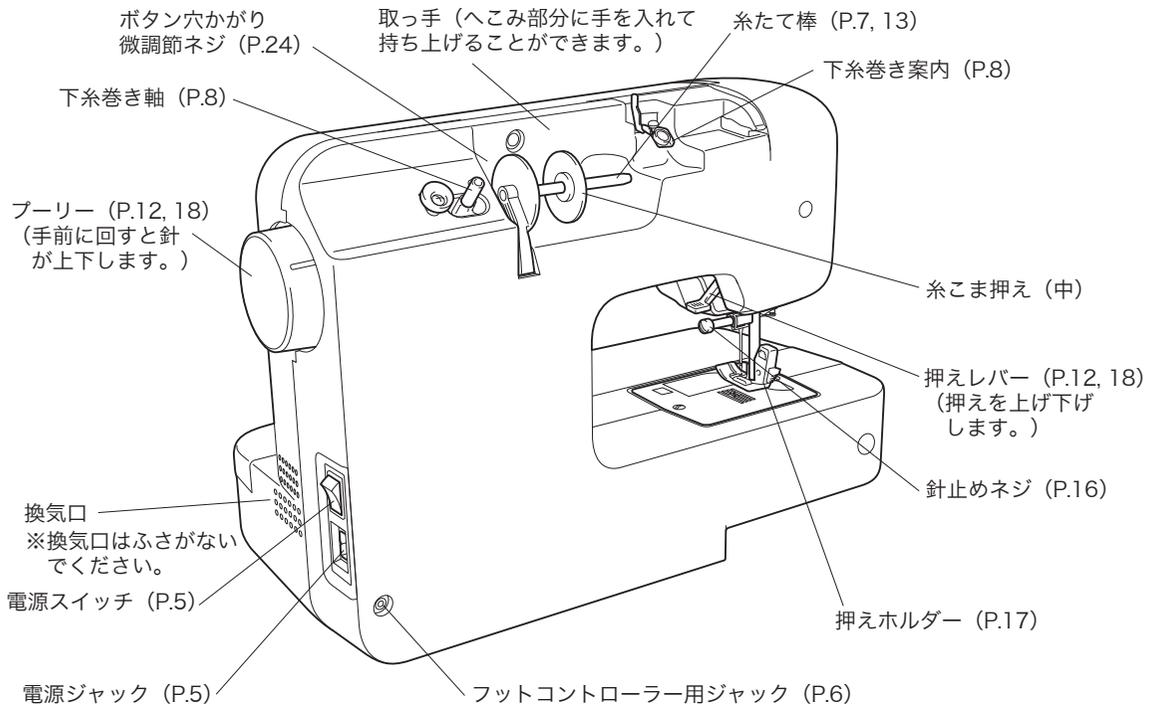


フットコントローラー (P.6 参照)
モデル名：FC32291
型式：MODEL T

各部の名前

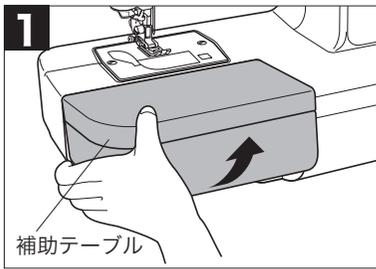


※補助テーブルの下部分を左にスライドさせると開きます。
中にボビンや押えなどの付属品を収納するアクセサリートレイが付いています。(P.4)



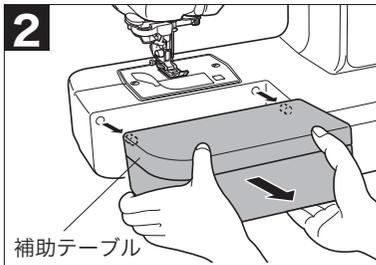
※取扱説明書上の図は現物と多少異なることがあります。
※糸は付属していません。市販の糸をお使いください。

■補助テーブルの取り外し・取り付け

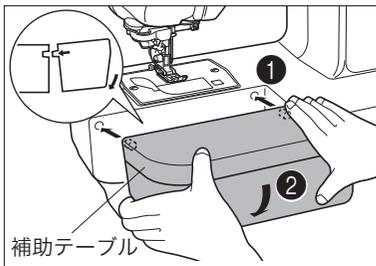


取り外し方

- 1 左手を補助テーブルにかけて、手前を浮かせるように持ち上げます。



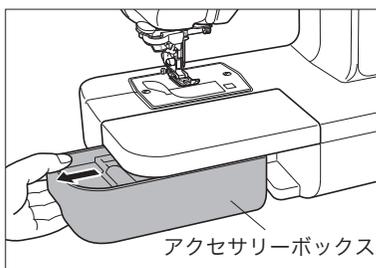
- 2 補助テーブルを手前に引いて外します。



取り付け方

- 両手で補助テーブルを持ち補助テーブルの突起部分と本体の穴を合わせて下に傾けて差し込み(①)、手前側をおろします(②)。

■アクセサリボックス (おどろぐ BOX) の開け方・閉め方



- 開くときは左にスライドさせます。
閉めるときは右に戻します。

ぬう前の準備

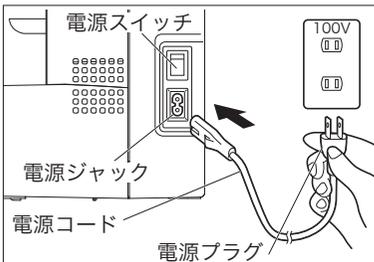
ミシンの電源を入れる

⚠ 警告

- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
- 緩んだコンセントは使用しないでください。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 使用中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき

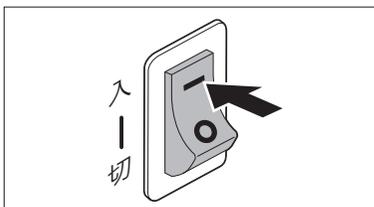
⚠ 注意

- 本製品に付属の電源コードを使用してください。
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くと、コードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 電源コードまたは電源プラグが破損したときは、ミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 1 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、付属のコードを本体右側面の電源ジャックに差し込み、次に電源プラグを差し込みます。

※電源コードは付属のものを使用してください。



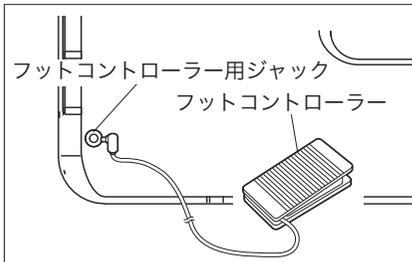
- 2 電源スイッチの“入”側を押して「入」にします。
※電源が入り、同時に手もとライトが点灯します。
- 3 電源を切るときは、電源スイッチの“切”側を押して「切」にします。

フットコントローラー (別売) の使い方

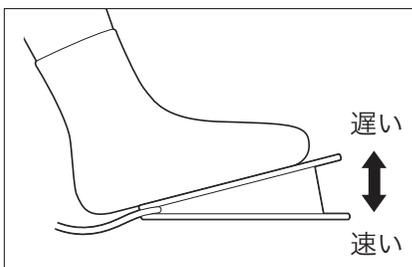
※フットコントローラーは、コントローラー モデル名: T型 / FC32291 をご使用ください。

⚠ 注意

- フットコントローラーを接続するときは、誤ってマシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。
- このマシンには以下のモデルのフットコントローラーが使用できます。その他のモデルまたは他社のフットコントローラーは使用しないでください。
MODEL T
MODEL S
- フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
火災・感電の原因となります。
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。
ケガ・故障の原因となります。
- 長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。
火災・感電の原因となります。



- 1 電源スイッチを「切」にして、フットコントローラーのプラグを本体裏面のジャックに差し込みます。



- 2 電源スイッチを「入」にして、ぬう準備ができたならフットコントローラーをゆっくりと踏み込みます。(マシンが動きます。)

※浅く踏んでいるときは、ぬい速度は遅く、深く踏み込むほど、ぬい速度は速くなります。

※本体のスピードコントロールレバーで設定された速度がフットコントローラーの最高速度になります。

- 3 踏み込みをやめるとマシンは止まります。

※フットコントローラー使用時は、本体のスタート/ストップスイッチを押してマシンをスタートさせることができません。

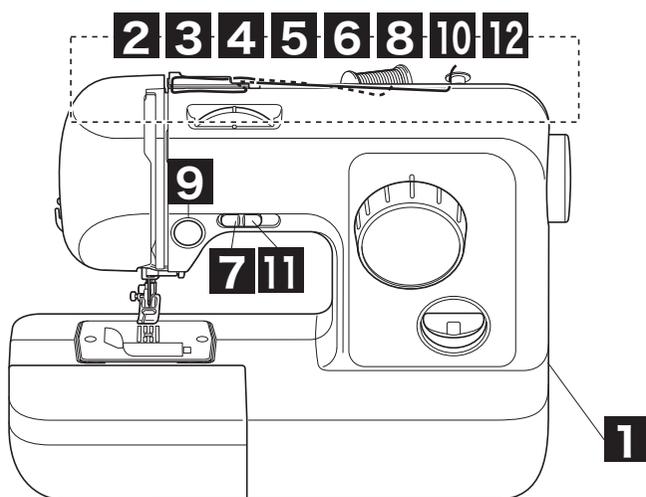
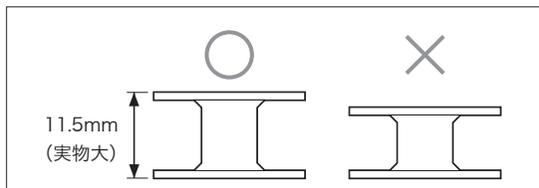
上糸と下糸の準備

■下糸を巻く

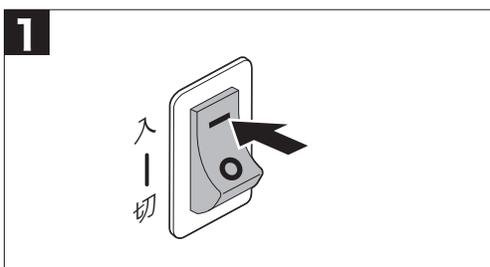
⚠ 注意



- 必ず専用ボビン（モデル名：B051）をご使用ください。その他のボビンを使用すると、ケガや故障の原因となります。

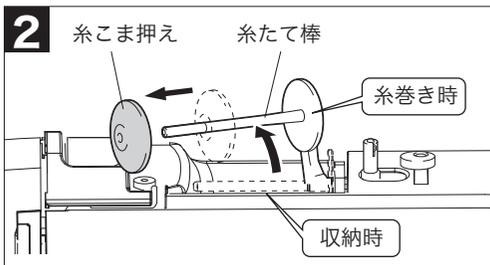


1



1 電源スイッチを入れます。

2

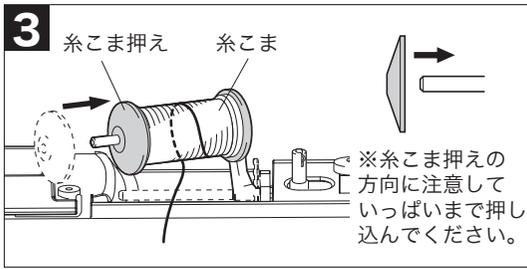


2 糸たて棒を後側に倒して、糸こま押えを外します。

⚠ 注意



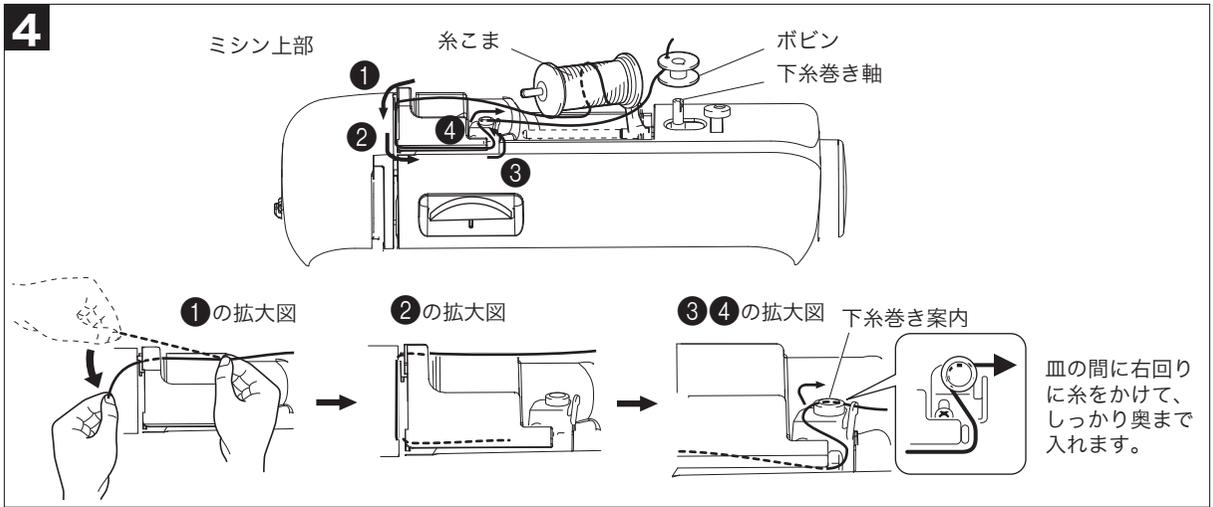
- 下糸巻きは、糸たて棒を必ず後側に倒した状態で行ってください。倒さずに使用すると糸がからまるおそれがあります。



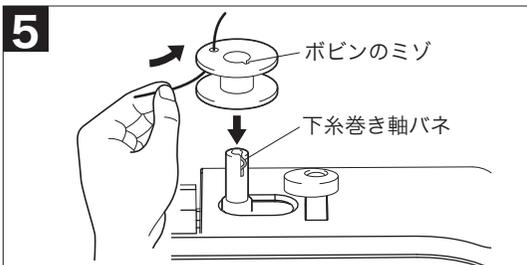
3 糸こまを横にして、糸が下側から手前にくるように差し込みます。

注意

- 糸こまの向きを正しく、糸こま押えを正確にセットしないと糸たて棒に糸がからまるおそれがあります。
- 糸こま押え (大) (中) は糸こまの大きさに合わせてご使用ください。
糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかるおそれがあります。



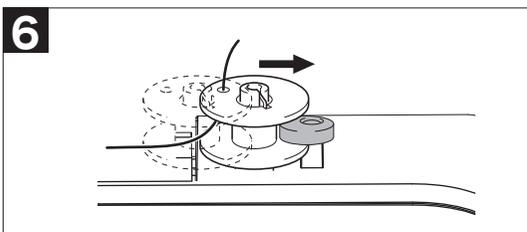
4 糸こま部の糸を右手で保持しながら左手で糸端を持ち、下糸巻き案内表示 (破線) に従い、①～④の順番でミゾにそって順序よく糸を通してください。



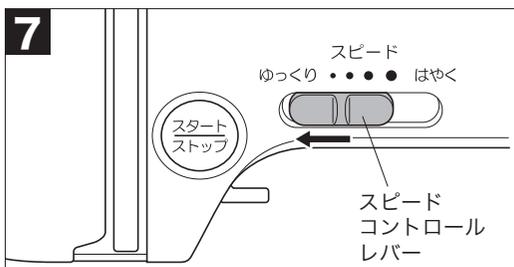
5 内側からポビンの穴に糸を通し、ポビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて軸の根元まで押し込みます。

注意

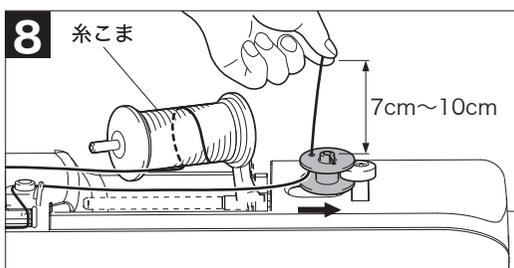
- 必ず表記の方法で行ってください。糸をポビンの穴に通さずに手で巻きつけてから下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにポビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



6 ポビンを右 (➡ 方向) にカチッと音がするまで押しします。



7 スピードコントロールレバーを「ゆっくり」(←方向)にスライドさせます。

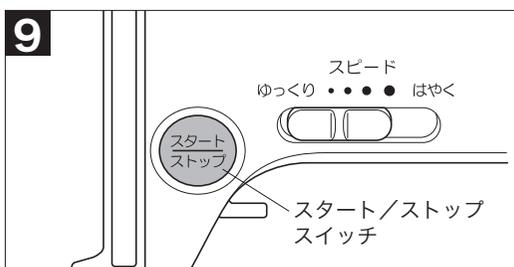


8 糸を7cm～10cm引き出し、糸端を持ってスタート/ストップスイッチを押し、ボビンを10回程度回転させます。

※フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーを踏みます。

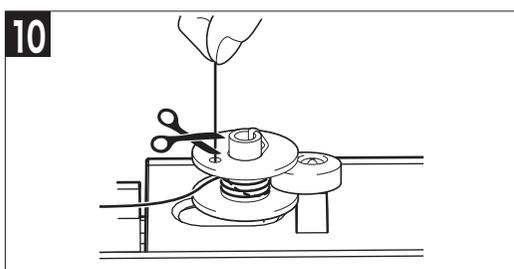
⚠ 注意

- 糸は、まっすぐ上に伸ばして持ってください。糸が短かったり、たるんでいたたり、斜めに持っていたりすると糸がボビンに巻き込まれ、ケガの原因となります。

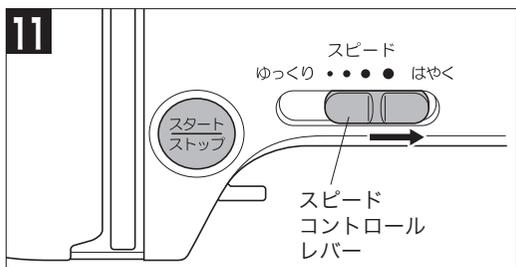


9 スタート/ストップスイッチを押して、下糸巻きを止めます。

※フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。



10 糸端をハサミで切ります。



11 スピードコントロールレバーを「はやく」(→方向)にスライドさせます。

再びスタート/ストップスイッチを押して、下糸巻きを行います。

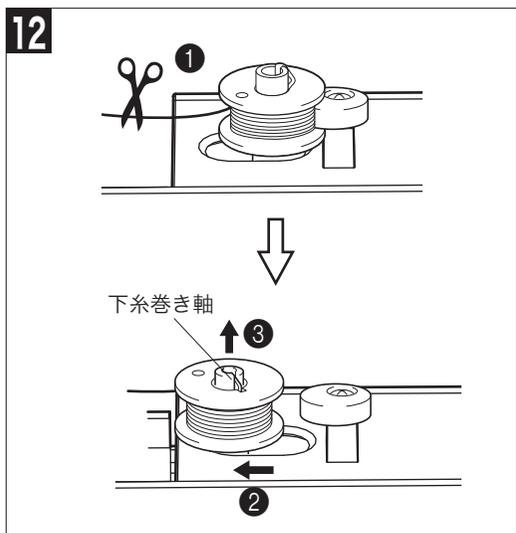
※フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーを踏みます。

ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート/ストップスイッチを1回押します。下糸巻きが止まります。

※フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。

⚠ 注意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。そのまま続けると、故障の原因となります。



12 はさみで糸を切り(①)、下糸巻き軸を左に戻し(②)、ボビンを軸から外します(③)。スピードコントロールレバーを「ゆっくり」の方に戻します。

※下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたり、プーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。

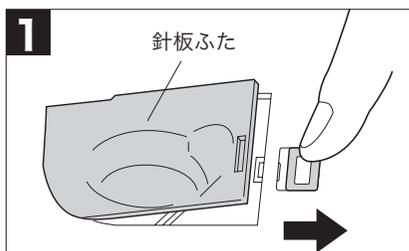
※下糸巻き軸が右側に押された状態のときは、針は動きません(縫製できません)。

■下糸をセットする

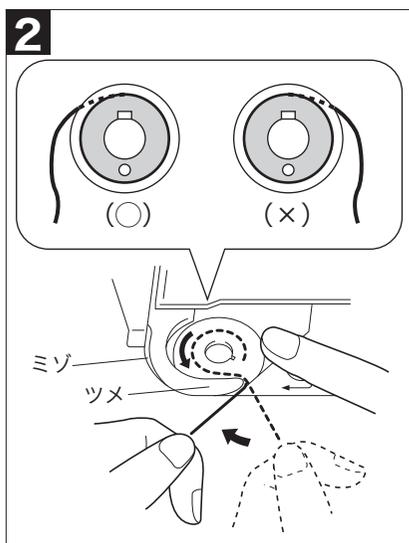
⚠ 注意

- **必ず、電源スイッチを「切」にしてから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。**

ポビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、下糸を引き出さずにすぐにぬい始めることができます。



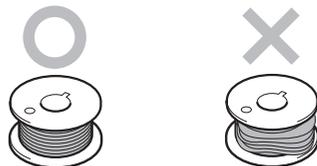
- 1 針板ふたの横のつまみを右（➡方向）にスライドさせて針板ふたを外します。



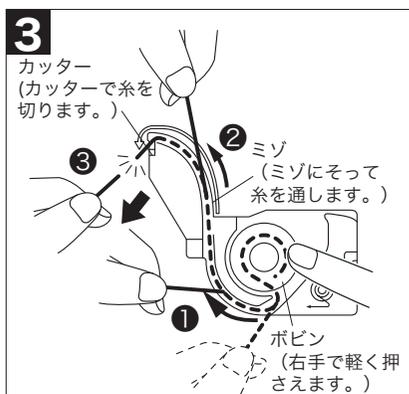
- 2 糸が左巻きになるように、右手でポビンをセットし、左手で巻き終わりの糸を図のようにしっかりツメに引っかけた後、ミゾにそって糸をかるく引っ張ります。

⚠ 注意

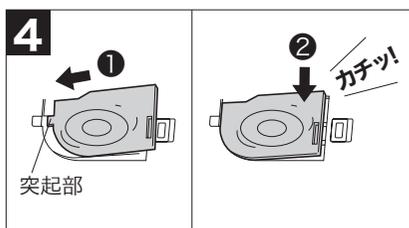
- **ポビンは必ず正しい方向から糸が出るようにセットしてください。ポビンを逆の方向にセットすると針折れや糸調子不良の原因となります。**
- **下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと針折れや糸調子不良の原因となります。**



均一に巻かれている 糸が浮いている



- 3 図のように、右手でポビンを軽く押えながらミゾにそって糸を通して、手前に引きます。
※このとき、ポビンが左回りに軽く回ることを確認してください。
カッターで糸を切ります。



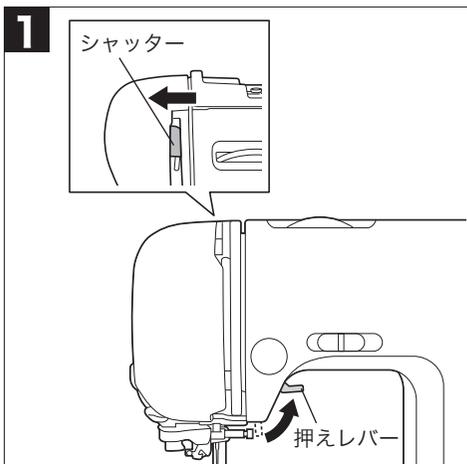
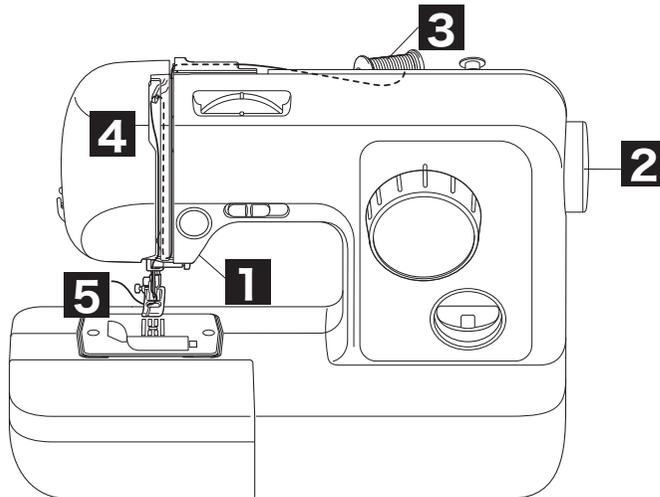
- 4 針板ふたの左の突起部を本体に差し込みます。(①) 針板ふたの右側を上からカチッと音がするまで押し、針板ふたを閉めます。(②)
※下糸を引き上げなくてもそのままぬうことができます。

■上糸を通す

⚠ 注意



- 必ず、電源スイッチを「切」にしてから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。
- 上糸通しは指示に従って正しく行ってください。糸が正しく通っていない場合、糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

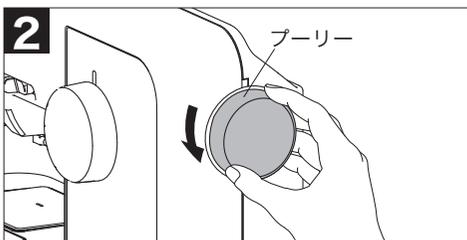


- 1** 押えレバーを上げます。
押えが上がります。

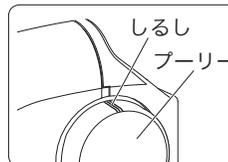
※ ELU58 シリーズでは、シャッターが開きます。
※ ELU50 シリーズにはシャッターはありません。

⚠ 注意

- 押えが下がった状態では、上糸を通すことができません。



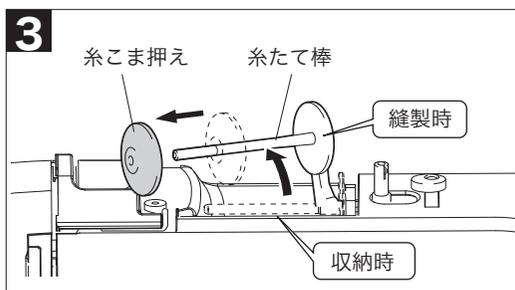
- 2** プーリーを手前に回して、針を上げます。



- プーリーの“しるし”が真上にきたときが糸かけが出来る位置の目安です。

⚠ 注意

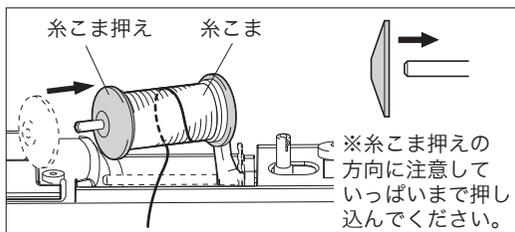
- プーリーを回して正しい位置に針を上げないと、上糸を通すことができません。



3 糸たて棒を後側に倒して、糸こま押えを外します。

！ 注意

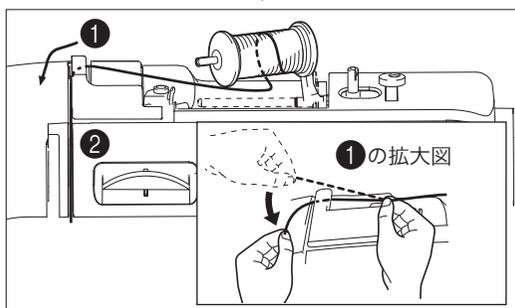
- ミシンをお使いになるときは、必ず糸たて棒を後側に倒した縫製位置でご使用ください。糸たて棒を倒さないで縫製すると、糸がからまり、糸調子不良や針折れの原因となります。



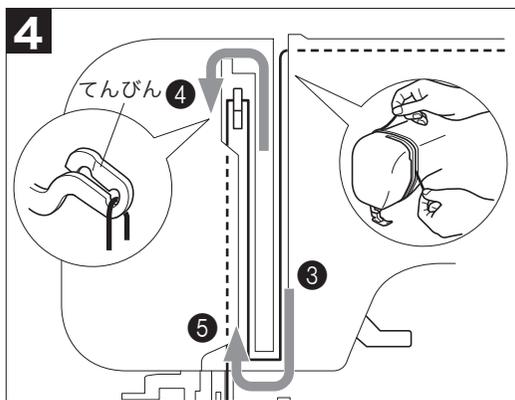
糸こまを横にして、糸が下側から手前にくるように差し込みます。

！ 注意

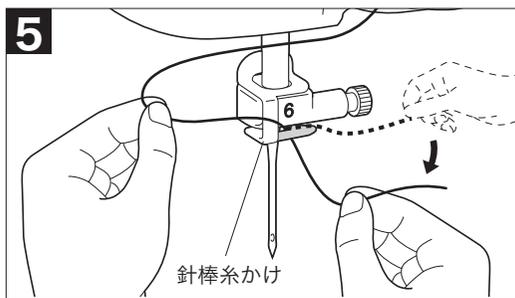
- 糸こまの向きを正しく、糸こま押えを正確にセットしないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）は糸こまの大きさに合わせてご使用ください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



ミゾにそって、ミシン本体に表示されている番号順に糸を通します。(①、②)



4 番号順に糸を通します。(③) てんびんに糸をかけます。てんびんの右側から後ろに糸を回し、左手前に糸を運びます。(④) 番号順に糸を通します。(⑤)

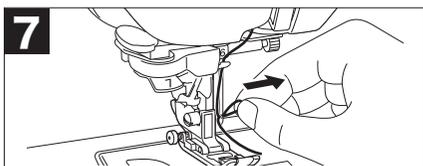
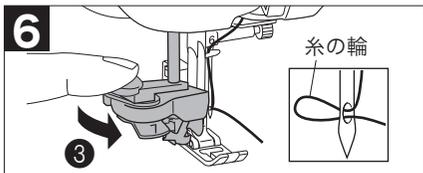
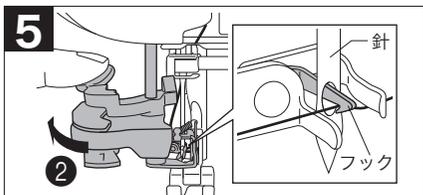
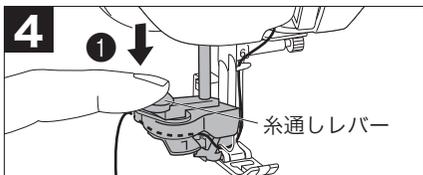
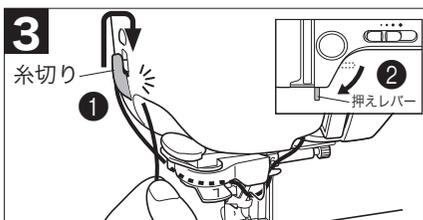
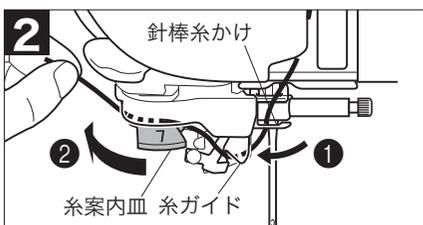
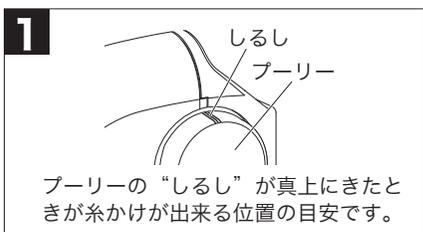


5 針棒糸かけに糸をかけます。 ※図のように左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸かけがしやすくなります。

■上糸を針に通す（糸通し装置を使う）

⚠ 注意

- 必ず、電源スイッチを「切」にしてから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。



⚠ 注意

- 糸通し装置は家庭用ミシン針 (HA × 1) 11 ~ 16 番の範囲内でご使用ください。針と糸の適正な組み合わせは P.17 「布地と糸の種類による針の使い分け」を参照してください。

- 1 プーリーの“しるし”が真上にあることを確認します。
- 2 針棒糸かけにかけた糸の端を左手で持ち、糸ガイドにしっかりとかけます。(①)
手前から、糸案内皿のすき間に糸をしっかりと入れます。(②)
※糸ガイドに糸をしっかりとかけないと、針穴に糸が通りません。
- 3 糸切りに後ろから糸を引っかけて切り (①)、押えレバーを下げます。(②)
- 4 糸通しレバーを一番下まで下げます。(①)
- 5 糸通しレバーを一番下に下げたまま、止まるまで後側にゆっくり押しします。(②)
※糸がイラストのようにフックにかかっていることを確認してください。
- 6 糸通しレバーをゆっくりと手前に戻し (③)、手を離します。糸が針穴に通ります。
- 7 糸の輪を後ろ側へ引き、針穴から糸の端を引き出します。

⚠ 注意

- 無理に引っ張って針を曲げないように注意してください。

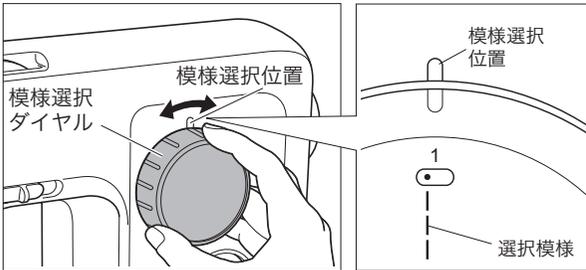
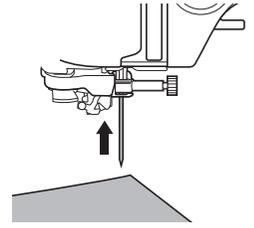
- 8 押えレバーを上げ、糸の端を押えの間に通して後ろ側に 5cm ほど引き出します。(P.18、手順 4 参照)
上糸のセットが完了しました。

模様の選び方

⚠ 注意



- 模様選択ダイヤルは、必ず針が布地から上がっていることを確認してから回してください。針が布地にささったまま、およびミシンが動いているときに回すと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



模様選択ダイヤルを回して、ダイヤル上の使用したい模様を、模様選択位置に合わせます。

【お願い】

模様選択ダイヤルを回す時は、押えレバーを上げてください。(P.18 参照)

※模様選択ダイヤルと模様選択位置の形状は、仕様により図と異なる場合があります。

■このミシンでぬえる模様

模様の種類や使用する押え、用途などを一覧にしています。

模様の種類	直線			三重ぬい	たちめかがり	ジグザグ 三重ぬい	ジグザグ		まつりぬい	たちめかがり	ボタン穴 かがり		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	b	ac	d
選択模様													
使用する押え (記号)	J			G	J	J	L		J	A			
主な用途	薄地・普通地	普通地・厚地	普通地 ファスナー付け	地ぬい (ぬい目をしよう ぶにしたとき)	たちめかがり	飾りぬい	その他 アッブリケ パッチワーク		まつりぬい	(たちめかがり (のびる布地))	ボタン穴 かがり		

※ファスナー付けには、片押え<I> (別売)：モデル名：F064J をご使用ください。

※ ELU50 シリーズのみ：

ジグザグ押えには、押え固定ピンが付いていません。

⚠ 注意

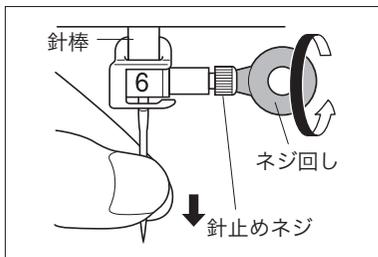


- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

針を交換する

⚠ 注意

- 針の交換は必ず、電源スイッチを「切」にしてから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- 針は必ず家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。その他の針を使用しますと針折れや故障の原因となります。



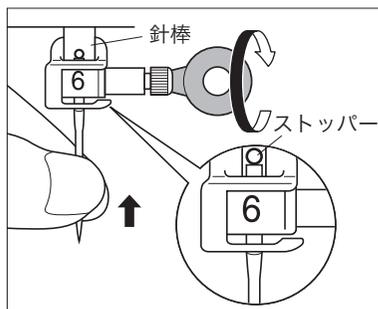
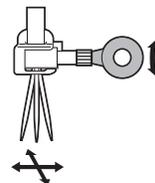
1 電源スイッチを「切」にし、針を上げ、押えレバーを下げます。

2 針止めネジを手前に回してゆるめて、針を抜きます。

※針をミシン内部に落とさないように、針穴を布や紙などでふさいでから、針を抜いてください。

⚠ 注意

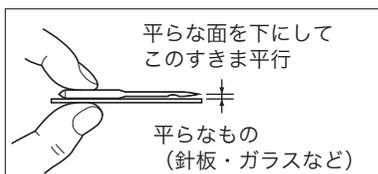
- 針止めネジをゆるめたり、しめたりするときは、針棒に前後・左右に大きな力を加えないでください。故障の原因となります。



3 新しい針の平らな面を後ろ側に向けてストッパーに当たるまで差し込み、針止めネジをしっかりとしめます。

⚠ 注意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、針止めネジを付属のネジ回しで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと針折れや故障の原因となります。



正しい針の見分け方

平らな物 (針板、ガラス板など) に針の平らな面を合わせ、すきまが平行である針をご使用ください。

針先が曲がったり、つぶれているものは使用しないでください。

針は家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。



■布地と糸の種類による針の使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った針を選んでください。

布地の種類	普通地			薄地			厚地			のびる布地		ほつれやすい布地		ステッチ糸の場合		
	ブロード	タフタ	ギャバシン フラノ	ローン	ジョーゼット	ポーラ	デニム	コーデュロイ	ツイード	ジャージ	トリコット					
ミシン種類	綿糸	合繊糸	絹糸	綿糸	合繊糸	絹糸	綿糸	合繊糸	絹糸	用ニット糸	綿糸	合繊糸	絹糸	合繊糸	絹糸	
ミシン糸太さ	60 90	50	60 90	50	30	50	50 60	50 60	50 60	50 60	50 90	50	30	50 60		
針の種類	11～14			9～11			16	14～16			HG針ニット用 11～14		9～14		16	11～14

※通常は上糸と下糸は同じ糸をご使用ください。

※のびる布地には、ニット用針をご使用ください。ブラザー純正「HG針ニット用#11(金色)」を推奨します。

⚠ 注意



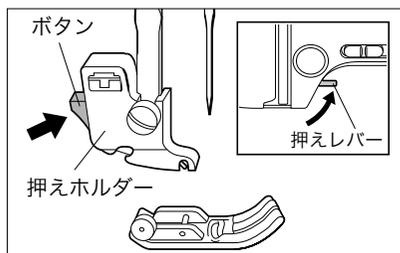
- 布地と糸と針の組み合わせは、上記の表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（9～11番）でぬいますと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因にもなります。

押えを交換する

⚠ 注意

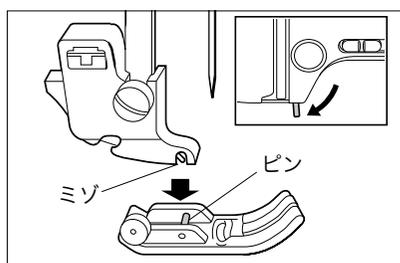


- 押えの交換は必ず、電源スイッチを「切」にしてから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。
- 必ず本製品専用の押えをご使用ください。その他の押えを使用するとケガ・故障の原因となります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。



取り外し方

- 1 電源スイッチを「切」にし、プーリーを手前に回して針を上げます。
- 2 押えレバーを上げます。
- 3 押えホルダーのボタンを押します。
※押えが外れます。



取り付け方

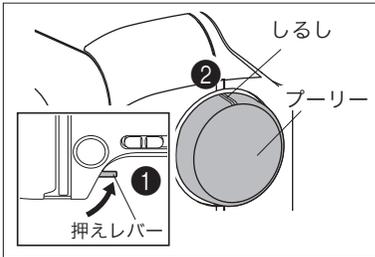
- 1 押えホルダーのミゾと押えのピンが合うように押えを置き、押えレバーを下げます。
- 2 押えレバーを上げて、押えが取り付けられたことを確認します。
※押えは各模様に適した押えを使用してください。
(P.15「このミシンでぬえる模様」参照)

ぬってみましょう

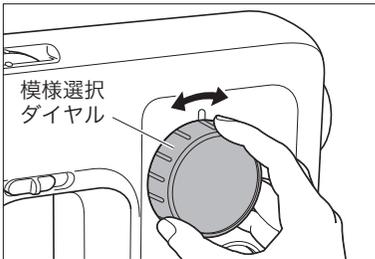
基本のぬい方

⚠ 注意

- ミシンの操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針・プーリー・てんびんなど動いている部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。ケガや針折れの原因となります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- ぬう際には、まち針などに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

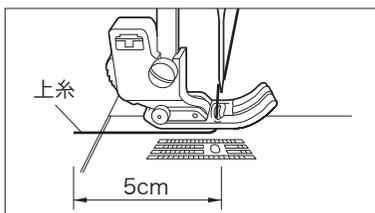


- 1 押えレバーを上げます。(1)
プーリーの“しるし”が真上にあることを確認します。(2)

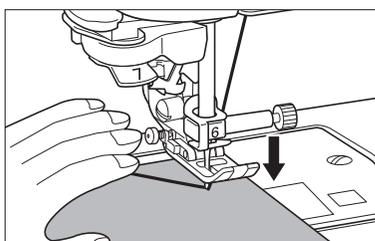


- 2 模様選択ダイヤルを回して、模様を選びます。
3 選んだ模様に合わせ、押えを付け替えます。
(P.17「押えを交換する」、P.15「このミシンでぬえる模様」参照)

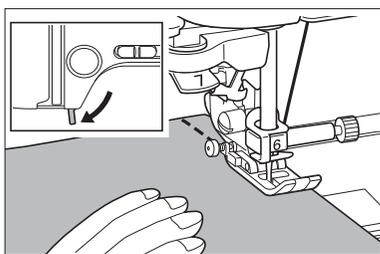
模様	b	ac	d	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	押え記号
押え記号	— A —	J	J	J	J	J	G	J	J	J	L	J		



- 4 上糸を押えの下に通して後るへ5cmほど引き出しておきます。



- 5 布地を押えの下に入れ、糸と布地を左手で押え、右手でプーリーを回してぬい始めの位置に針をさします。



6 押えレバーを下げます。
※押えレバーが下がっていないと、ミシンは動きません。

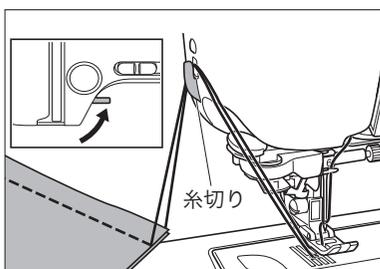
7 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。
※ぬっている途中でもスピードの調節はできます。



8 電源スイッチを「入」にします。

9 手を布地に軽く添え、スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。

※スイッチを押しつづけると、低速でぬいます。



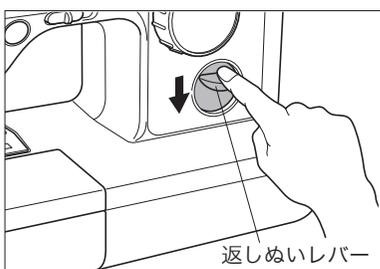
10 もう一度スタート/ストップスイッチを押すとミシンは止まります。

※ぬい始め、ぬい終わりに返しぬいをするときは、「返しぬいをする」を参照してください。

11 針が完全に止まったら、押えレバーを上げて布地を取り出します。

12 上下2本の糸を糸切りにかけて、下に引っ張り糸を切ります。

■返しぬいをする



返しぬいは、ぬい始めやぬい終わりでぬい目を補強する場合に行います。

返しぬいレバーを下げている間は低速で返しぬいを行います。

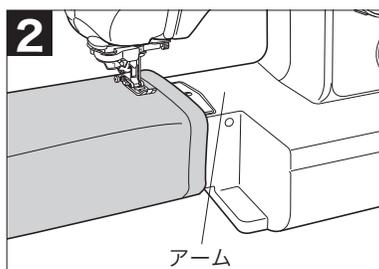
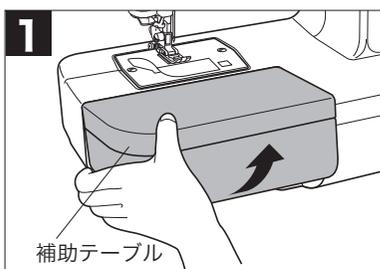
返しぬいレバーから手をはなすと、ミシンがストップします。

※フットコントローラーでミシンが運転されているときは、そのままの速度で返しぬいを行います。

※たちめかがり押え<G>、ボタン穴かがり押え<A>、まつりぬい押え<L>を使用するときは、返しぬいを行わないでください。

■筒ものをぬう (フリーアームにする)

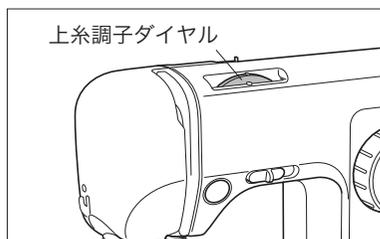
そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブル(P.3 参照)を取り外してフリーアームにします。補助テーブルの取り外し・取り付け方法は、P.4「補助テーブルの取り外し・取り付け」を参照してください。



1 補助テーブルを手前に引き上げて取り外すと、フリーアームになります。

2 布地をアームに通し、布地を回しながらぬっていきます。

■糸調子を調節する



糸調子を強くするには、上糸調子ダイヤルを右に、糸調子を弱くするには、上糸調子ダイヤルを左に回します。

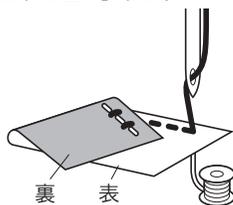
※上糸調子ダイヤルの **標準** は、普通地(中厚地)をぬう場合の目安です。

※布や糸の種類によって糸調子は変わりますので、実際にお使いになる生地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

■ 上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見えます。

※上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。(P.12「上糸を通す」参照)



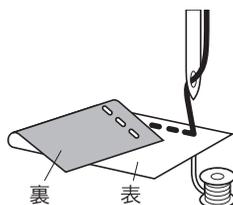
上糸調子ダイヤルを右に回します。



よわく・・・上糸調子 ●●つよく

■ 正しい糸調子

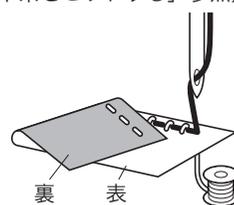
上糸と下糸の交差が布地と布地の間にできます。



■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えます。

※下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなる場合があります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。(P.11「下糸をセットする」参照)



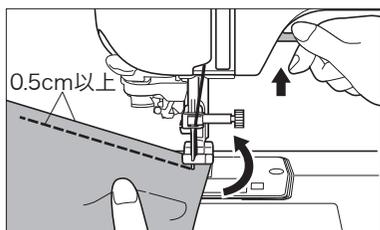
上糸調子ダイヤルを左に回します。



よわく・・・上糸調子 ●●つよく

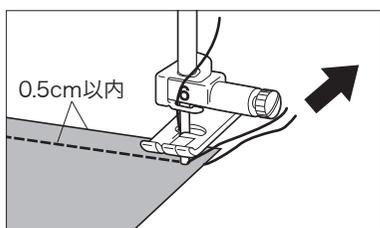
上手にぬうコツ

■ぬう方向を変える



布端から 0.5cm 以上内側をぬう場合

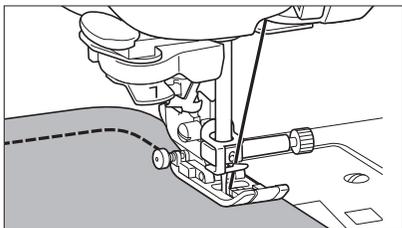
方向を変える位置でミシンを止め、プリーを回して針を布地にさします。押えレバーを上げ、針を軸にして布地を回し、再び押えレバーを下げてぬい始めます。



布端から 0.5cm 以内をぬう場合

あらかじめ角部にしつけをしておきます。方向を変える位置でミシンを止め、プリーを回して針を布地にさします。押えレバーを上げ、針を軸にして布地を回します。方向を変えたらしつけ糸を後ろへ引っ張りながらぬいます。

■カーブをぬう



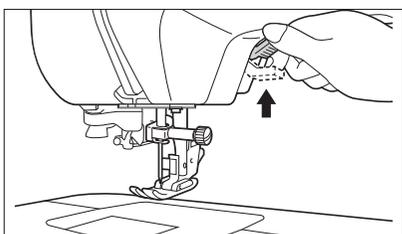
ぬい目を布端と平行になるように、ミシンを途中で止めながら、少しずつ布地の向きを変えてぬいます。

■厚い布地をぬう

布地の厚さに合わせて、14～16番の針に交換します。(P.16「針を交換する」参照)

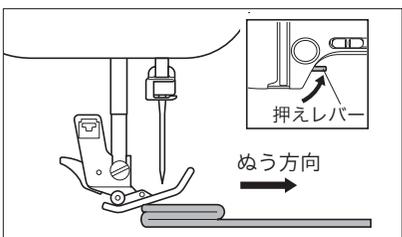
⚠ 注意

- 布の種類によってぬえる厚さが異なります。無理に布地を押し込んだりすると針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



●押えの下に布地が入らないとき

押えレバーは2段階に上がります。布地の重ねぬいなど布地を入りにくいときは、押えレバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり、布地が入れやすくなります。

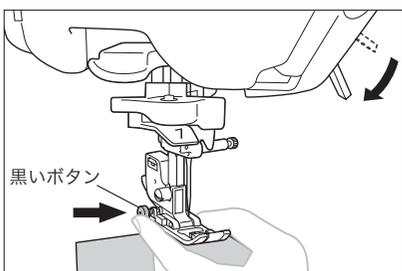


●ぬい始めに段差があって布地が送られないとき

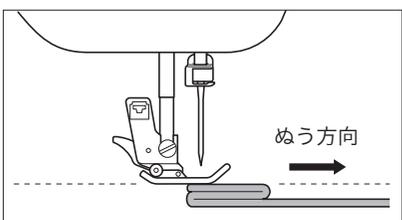
ジグザグ押え<J>に付いている、押えを水平にする機能を使用します。(ELU58シリーズのみ)

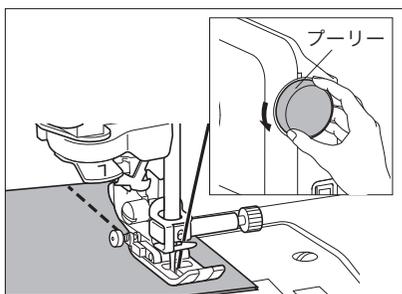
※ ELU50シリーズ付属のジグザグ押えでは、この機能は利用できません。

- 1 押えレバーを上げます。
- 2 ぬい始めの位置を合わせて、布地をセットします。
- 3 ジグザグ押え<J>を水平に保持し、左側の黒いボタン(押え固定ピン)を押したまま、押えレバーを下げます。
※ ELU50シリーズには、押え固定ピンが付いていません。



- 4 ボタンから手を離します。
※押えが水平になり、布地が送られるようになります。
※ぬい進めると、押えは通常の使い方になります。





●特に厚い布をぬうとき

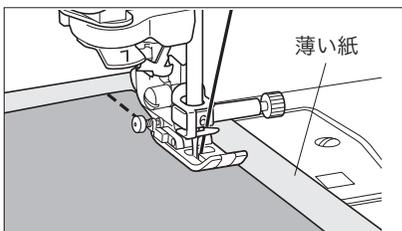
デニムなど特に厚い布をぬうときに、針がスムーズに動かない場合は、ぬい始めにプーリーを手で回してから、ミシンをスタートさせてください。

▲ 注意



- 布の種類によってぬえる厚さが異なります。無理に布地を押し込んだりすると針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

■薄い布地をぬう



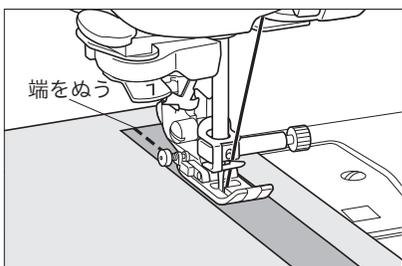
アイロンスプレーのりを使ってアイロンをかけたり、布地の下に薄い紙をしいたりしてぬうと、ぬいやすくなります。紙はぬい終わった後でていねいに取り除いてください。

■面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

▲ 注意



- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。



1 しつけをして、面ファスナーと布をぬい合わせます。

2 プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。

※針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。（P.17「布地と糸の種類による針の使い分け」参照）

※“マジックテープ®”は株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

いろいろなぬいかた

ボタン穴かがりをする

※実際にお使いになる生地の手切れで試しぬいをしてからぬってください。

⚠ 注意

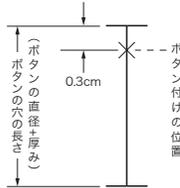


- 押えは前後の向きを確認して正しい向きで取り付けてください。
押えの向きを間違えますと針が押えに当たり、折れてケガをする原因となります。

■ たてのボタン穴かがり

シャツなどの細い前立てや小さなボタンをたくさん並べてつける場合によく使われます。

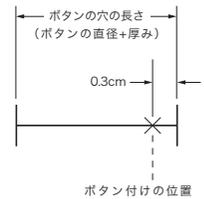
※しるしはボタン付けの位置より0.3cm上側に付けてください。



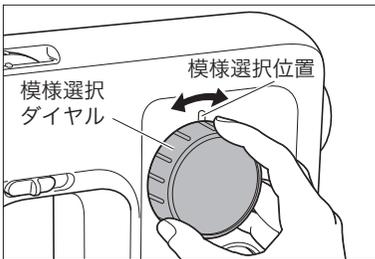
■ 横のボタン穴かがり

丈夫なので、ほとんどの服に使われます。

※しるしはボタン付けの位置より0.3cm外側に付けてください。

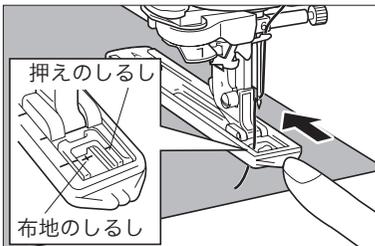


※0.3cmは目安です。しるしを付ける位置はかん止めやボタンの厚み、使用する糸の太さで異なります。



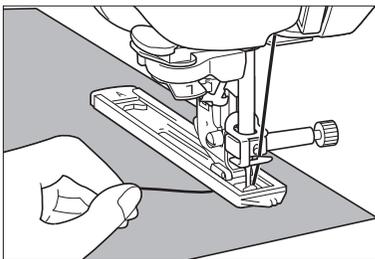
【ボタン穴かがりは、以下の順に模様番号を選択してぬいます】

ぬう順序	1	2	3	4
模様番号	ac 	b 	ac 	d
ぬい目				



- 1 ボタン穴かがりをしたい位置にしるしを付けます。
- 2 ボタン穴かがり押え< A >に付け替え、上糸を押えの穴から押えの下に通します。
布地を入れて、押えを後ろいっぱい押し、布地のしるしに押えのしるしを合わせて、押えレバーを下げます。
- 3 模様選択ダイヤルで模様番号< ac >を選びます。スタート/ストップスイッチを押してミシンをスタートさせ、かん止め (a) を5~6針ぬいます。

※このとき、上糸の端がぬい目に巻き込まれないように、上糸を軽く持ちながら、ぬってください。
※布地に手を軽く添えてください。



- 4 次に左側 (b) をぬいます。模様選択ダイヤルで模様番号< b >を選び、しるしまでぬいます。
- 5 次にかん止め (c) を5~6針ぬいます。模様選択ダイヤルで、もう一度模様番号< ac >を選んでぬいます。
- 6 最後に右側 (d) をぬいます。模様選択ダイヤルで模様番号< d >を選び、しるしまでぬいます。

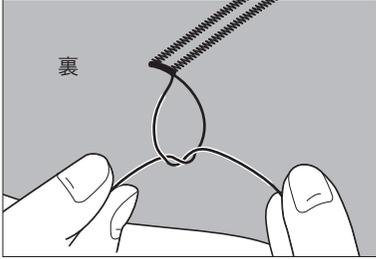
※針がかん止めの左側に停止した場合は、手でプーリーを手前に回して、一度針を右側に落としてから、再度針を上を上げてください。

⚠ 注意



- 模様選択ダイヤルは、必ず針が布地から上がっていることを確認してから回してください。針が布地にささったまま、およびミシンが動いているときに回すと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

7 押えレバーを上げて布を引き出します。ぬい終わりの糸を10cmほど残して切ります。

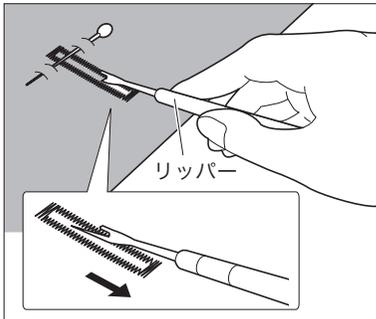


8 ぬい終わりのぬい目のほつれを防ぐため、布を裏返して上糸の端を布地の裏に引き出し、下糸と結んでおきます。
※引き出しにくい場合は、まち針やリッパーなどの先端で、糸を切らないように引き出してください。

9 ぬい始めの糸を切ります。

10 かん止めの内側にまち針を打ち、ぬい目を切らないように、リッパーで切り開きます。

※リッパーの背で切りみぞにスジをつけてからリッパーで切り開くと切りやすくなります。

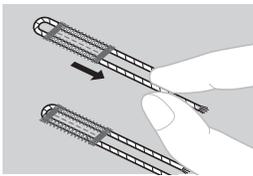
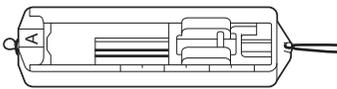


⚠ 注意



- リッパーで穴を開ける方向に手や指を置かないください。すべったときにケガをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。

● のびる布地の場合



のびる布地にボタン穴かがりをするときには、ボタン穴かがりに芯ひもを入れてください。

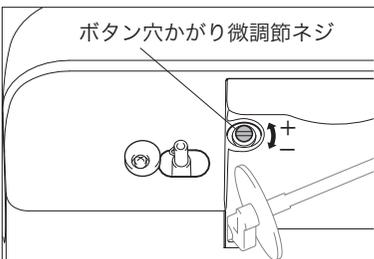
芯ひもはゆるまない程度に、手前をかるく結んでください。

※ぬい方は芯ひもなしの場合と同じです。

ぬい終わったら…

- ① 芯ひもの結びをほどいて、布を取り出します。
- ② 芯ひもを引いて、たるみをなくします。
- ③ 手ぬい針を使用して、布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

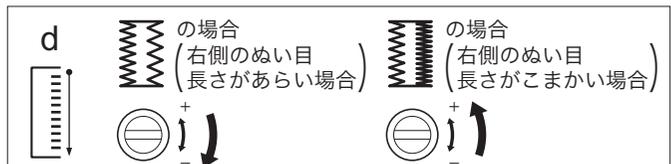
■ ぬい目長さの調節



ボタン穴かがりの左右のぬい目長さは出荷時に調整してあります。使用される布と糸の組み合わせにより左右のぬい目長さが異なる場合がありますので、そのときはボタン穴かがり微調節ネジを回して調節してください。

※ぬい目右側のみ調節ネジです。

左側のぬい目と比べて調節してください。

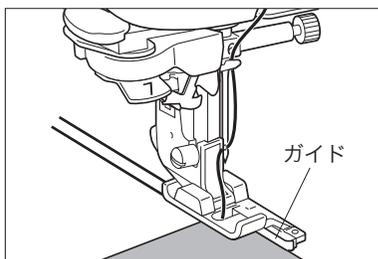


布端を始末する (たちめかがり)

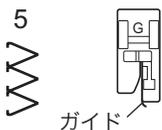
⚠ 注意



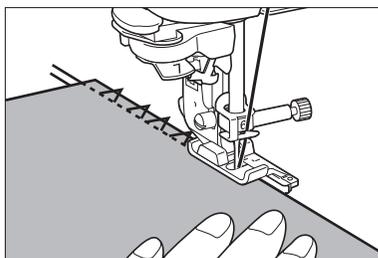
- たちめかがり押え<G>を使用するときは、必ず模様番号<5>を使用し、プリーを
手で回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用しますと、
針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。



- 1 たちめかがり押え<G>に付け替え、模様選択ダイヤルで模様番号<5>を選びます。



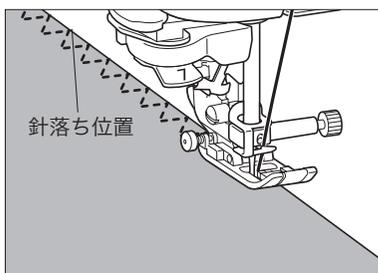
- 2 押えのガイドに布端が合うように布地をセットします。



- 3 布端がガイドに当たるように、手を添えながらぬっていきます。

※たちめかがりのぬい上がりは、素材により上糸と下糸の重なりがわずかに下(裏)に出る場合があります。

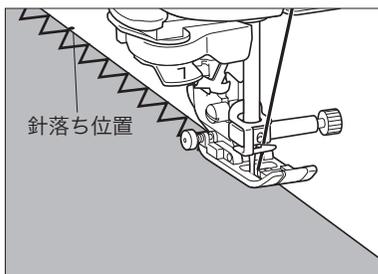
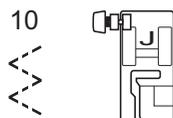
※たちめかがり押え<G>を使用するときは、返しぬいを行わないでください。



のびる布地の場合のたちめかがり

のびる布地の場合には、模様選択ダイヤルで模様番号<10>を選び、押えはジグザグ押え<J>を使用します。

針を布端よりわずかに外側に落ちるようにぬってください。

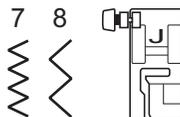


ジグザグ模様の場合のたちめかがり

たちめかがりとして広範囲に使用できます。

模様選択ダイヤルで模様番号<7>または<8>を選び、押えはジグザグ押え<J>を使用します。

針を布端よりわずかに外側に落ちるようにぬってください。

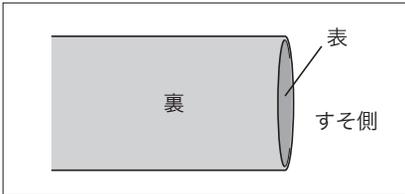


すそ上げをする (まつりぬい)

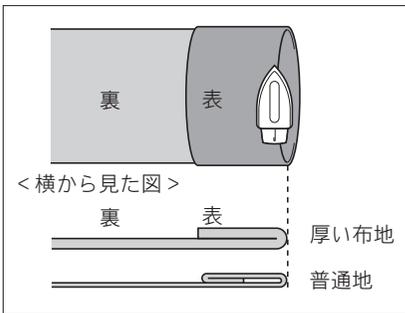
⚠ 注意

- 押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。万一スイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因になります。

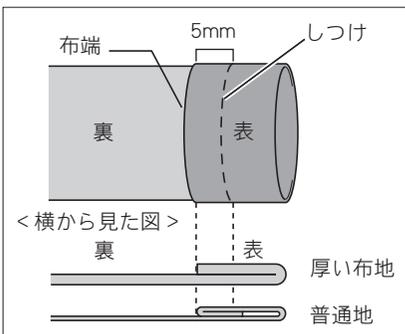
※スカートやズボンのすそを、次の手順でまつります。



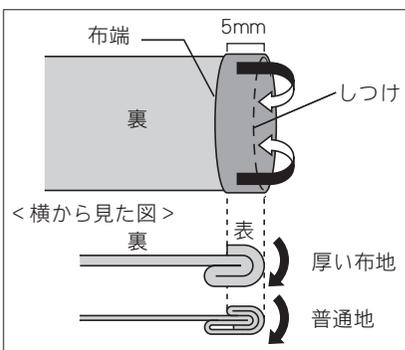
1 すそ上げするスカートやズボンを裏返します。



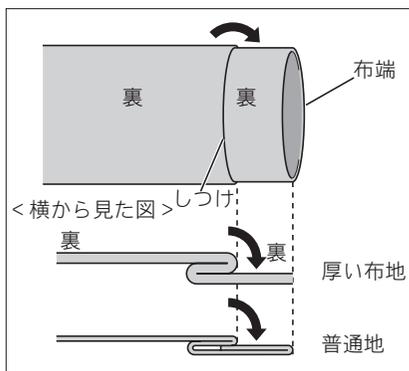
2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



3 布端から約5mmのところをチャコペンで印をつけ、しつけをします。

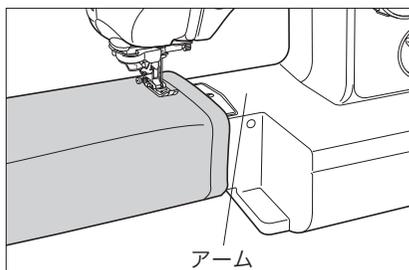
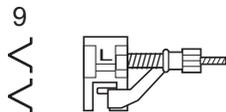


4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

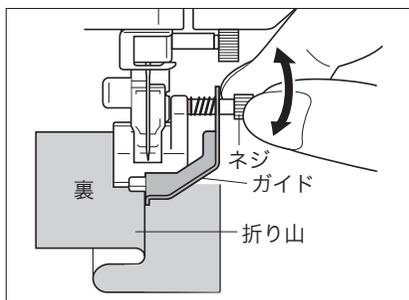


5 布端を開いて裏返します。

6 まつりぬい押え<L>に付け替え、模様選択ダイヤルで模様番号<9>を選びます。

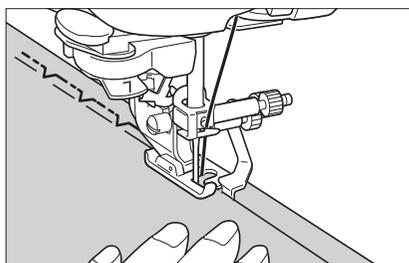


7 ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。(P.19「筒ものをぬう(フリーアームにする)」参照)

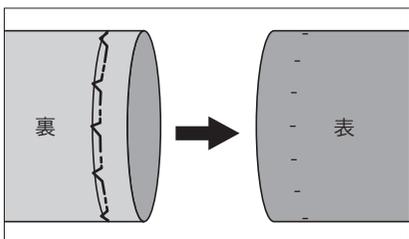


8 左の針落ちがわずかに折り山にかかるように、布地をセットします。

9 折り山に押えのガイドを合わせて、押えを下げます。
※まつりぬい押え<L>のネジを回して、折り山に押えのガイドがピッタリとあたるように調節してください。



10 折り山が押えのガイドにあたるように、布地に手を添えながらぬいます。



11 しつけをほどき、布地を表に戻します。

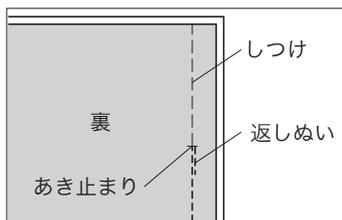
ファスナーを付ける

※片押え<1>（別売）を使用します。片押え<1>は、モデル名: F064J をご使用ください。

⚠ 注意

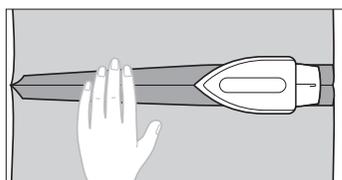


- 押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。万一スイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因になります。

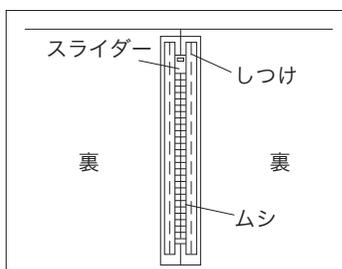


1 ジグザグ押え<1>を取り付け、布地を中表にします。（表面を合わせます。）

2 あき止まりまでは地ぬいをし（P.18「基本のぬい方」参照）、あきの部分（ファスナーを取り付けるところ）にはしつけをします。

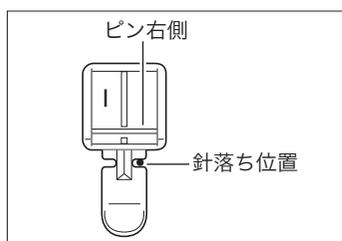


3 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



4 ぬい目のラインにファスナーのムシの中心を合わせてしつけをします。

5 模様選択ダイヤルで、模様番号<3>（) を選択します。

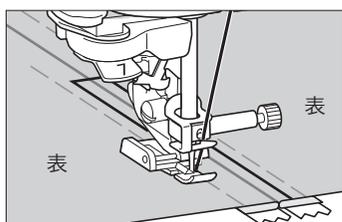


6 片押え<1>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。（P.17「押えを交換する」参照）

⚠ 注意



- 片押え<1>を使用するときは、必ず直線（模様番号<3>）を使用し、プーリーを手でゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用しますと、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。



7 布地の表面を上にして、ファスナーの周囲をぬいます。ぬい終わったら、しつけを取ります。

⚠ 注意



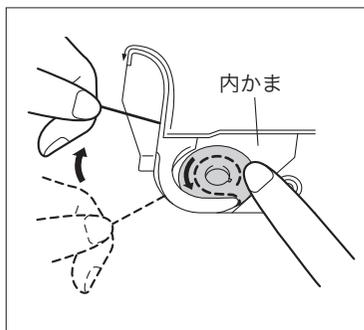
- ファスナー付けの際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

下糸を引き出してからぬう

⚠ 注意

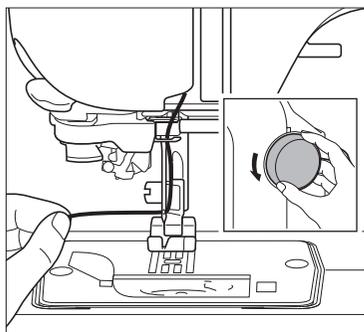


- **必ず、電源を切ってから行ってください。**万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。

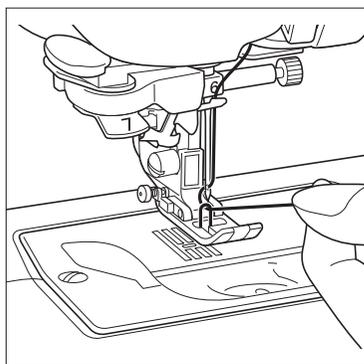


ギャザーやダーツなど、あらかじめ下糸を余分に引き出しておきたいときは、手動で下糸を引き出します。

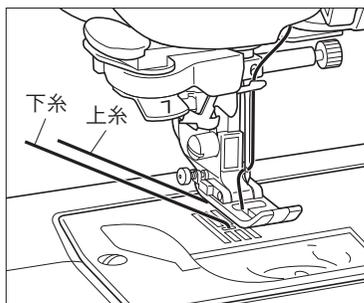
- 1 糸を矢印のようにミゾにそって通します。糸は切らないでください。
※針板ふたは、外したままにしておきます。



- 2 左手で上糸を軽く持ち、プーリーを手前にゆっくりと1回転させ、針を上げます。



- 3 上糸を引き上げると、下糸が針板の穴から輪になって出てきます。



- 4 下糸を 10cm ほど引き出し、上糸とそろえて押えの下に通します。
- 5 針板ふたを閉めます。

お手入れ

本体表面の汚れの掃除

⚠ 注意



- 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
ケガ・感電の原因となります。



本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布地に浸し、固くしぼってふきとってください。汚れを取った後は、乾いた布でふきとってください。

⚠ 注意



- ベンジン、シンナー、みがき粉は使用しないでください。
変色や変形の原因となります。

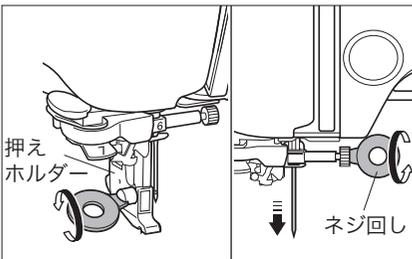
かまの掃除

ほこりがたまると縫製不良になる場合があります。
いつもきれいにしておきましょう。

⚠ 注意

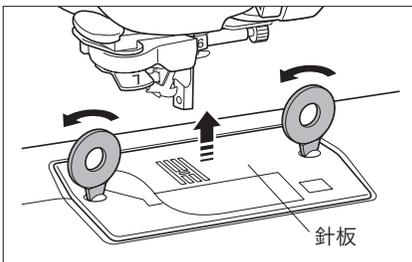


- 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
ケガ・感電の原因となります。

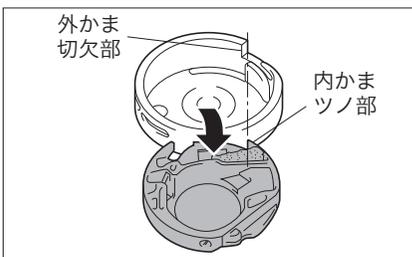


1 電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いて、押えを外します。(P.17「押えを交換する」参照)

2 ネジをゆるめて押えホルダーと針を外します。



3 ネジを外して針板を取り外します。

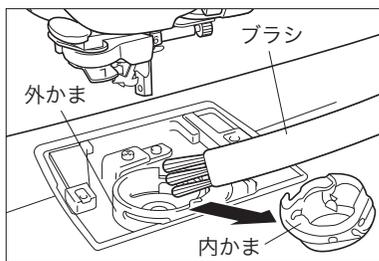


4 プーリーを手前に回し、外かま切欠部と内かまツノ部の位置を合わせて内かまを取り外します。

⚠ 注意

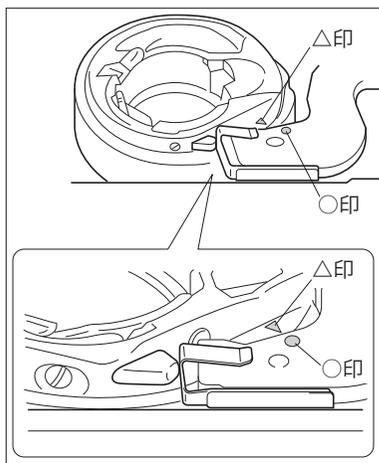


- プーリーは必ず手前に回してください。反対の方向に回すと、故障の原因となります。



5 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺や送り歯のまわりの糸くずやほこりを取り除きます。

※内かまには油を差さないでください。



6 左図のように、△印と○印を合わせて内かまを取り付けます。

⚠ 注意



- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一、使用しますと上糸がからみ、縫製不良や針折れの原因となります。内かまは最寄りのブラザー販売店でお求めください。



- 内かまは必ず正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

7 プーリーを手前に回して、送り歯を上に出します。

8 針板を手前側からはめこみ、針板のネジ穴を針板取付け部の穴に合わせます。

9 針板が送り歯と接触しない位置にあることを確認し、針板の左右のネジを指で軽くしめます。

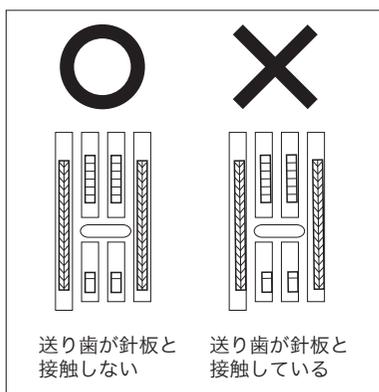
【注意】

ネジをミシンの中に落とさないよう注意してください。

※プーリーを回し、送り歯が針板と接触せず、スムーズに動くときは、手順 **10** に進みます。

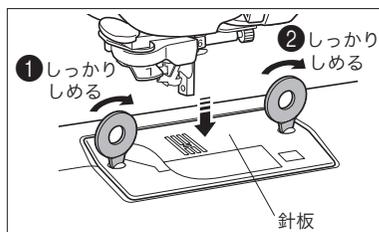
※プーリーを回し、送り歯が針板と接触するときは、左右のネジをゆるめ、手順 **9** からやり直します。

※上記の手順で針板を正しく取り付けられない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。



送り歯が針板と接触しない

送り歯が針板と接触している



10 左側のネジをしっかりしめてから、右側のネジをしめます。

11 押えホルダーを取り付け、ネジを確実にしめます。

⚠ 注意



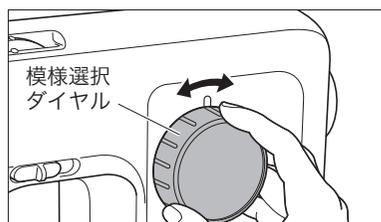
- ネジは確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が針板や押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

12 針を取り付けます。(P.16「針を交換する」参照)

13 「ミシンの動作を確認する」(P.32 参照)に従って、針板が正しく取り付けられたことを確認します。

■ミシンの動作を確認する

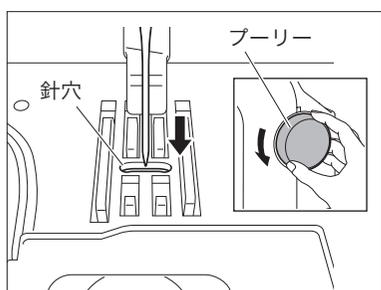
針板を外した後は、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。



- 1** 模様選択ダイヤルで、模様番号<3> () を選択します。

【お願い】

押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。



- 2** プーリーを手でゆっくりと手前に回して、針が針穴に正しく落ちることを確認します。

※針穴の中央に針が落ちることを左右前後から確認します。

※針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「かまの掃除」の手順 **7** (P.31 参照) に戻って、やり直してください。

- 3** 模様番号<8> () を選択します。

- 4** プーリーを手でゆっくりと手前に回して、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

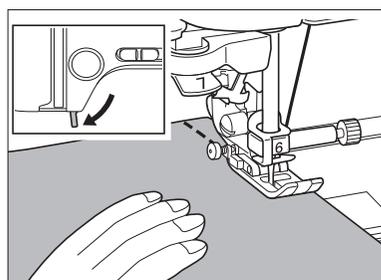
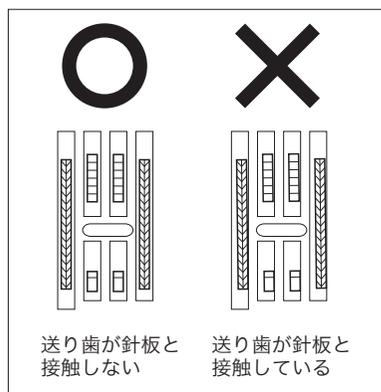
※針や送り歯が針板に接触する場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

- 5** 押えとボビンをセットします。(P.17「押えを交換する」、P.11「下糸をセットする」参照)

- 6** 上糸をかけ直します。(P.12「上糸を通す」参照)

【お願い】

上糸が正しくかかってないと、糸がらみの原因になります。正しく上糸をかけてください。



- 7** 普通地で試しぬいをします。

【お願い】

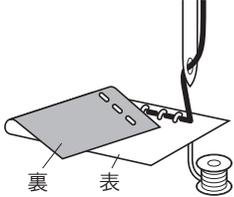
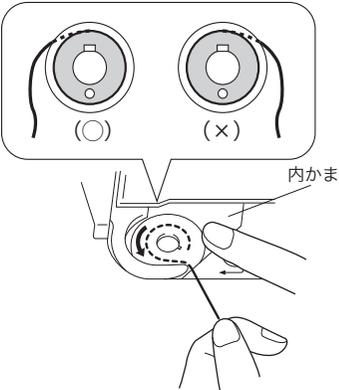
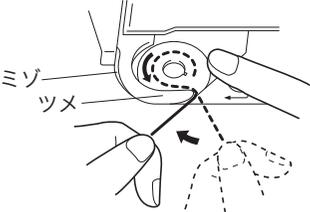
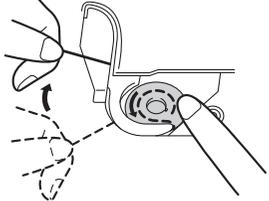
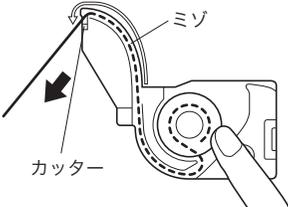
正しくぬえない場合、上糸が正しくかかっていないことや、薄い布を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

困ったときは

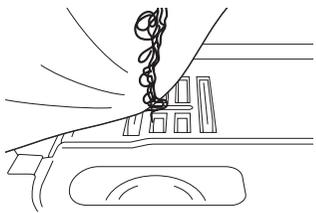
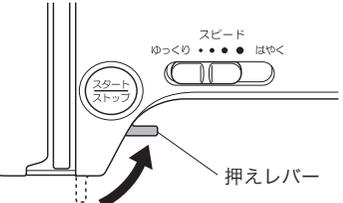
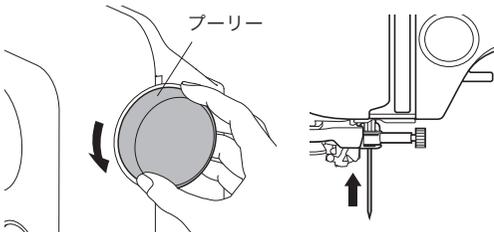
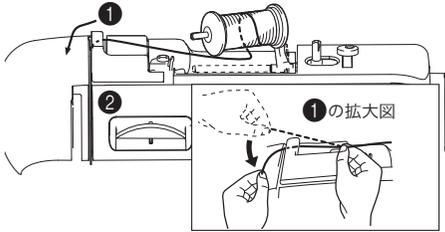
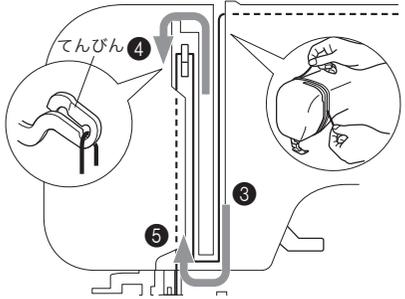
よくあるトラブルと対処方法

よくあるトラブル（4項目）とその対処方法を記載しています。

■上糸がつる

<p>症状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上糸が一本線になっている。 ・布地の表に、下糸がポツポツと出ている。（イラスト参照） ・上糸がつっていて、上糸を引くと抜けてしまう。 ・上糸がつっぱって、布にしわがよってしまう。 ・上糸が強く、上糸調子ダイヤルで調整してからぬい直しても変わらない。 
<p>原因</p>	<p>下糸が正しくセットされていません。 ※下糸が内かまに正しくセットされていないと、下糸に正しい張力が加わりません。そのため、上糸が引き上げられる際に、下糸も一緒に布地の上側まで引っ張られ、布地の上に糸が出てしまいます。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">対処のしかた／確認すること</p>	<p>ボビンを内かまから取り出し、1～2に従って、下糸を巻いたボビンを内かまにセットし直します。</p> <p>1 正しい方向から糸が出るように、ボビンを内かまにセットします。 ※逆の向きでボビンを内かまにセットしていると、正しい糸調子でぬうことができません。</p> <p>① 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。</p>  <p>② そのまま右手でボビンを内かまに入れます。</p>  <p>2 ボビンを指で押えながら糸を針板のミゾに通します。 ※内かまにボビンの糸を確実にセットしないと、正しい糸調子でぬうことができません。</p> <p>① 右手でボビンをかろく押さえ、左手で糸を引きます。</p>  <p>② 糸を引っ張りながら、針板のミゾに沿って糸を通します。</p>  <p>③ 最後に、手前に引いてカッターで糸を切ります。</p> 

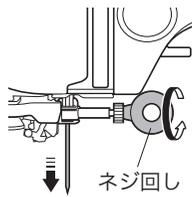
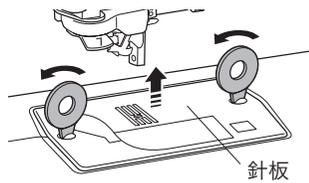
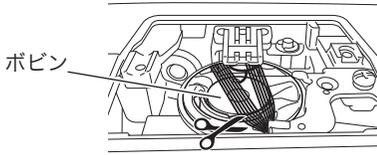
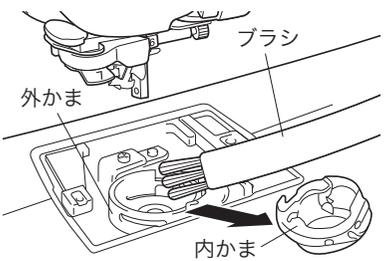
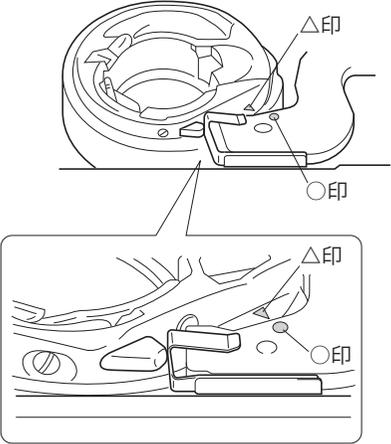
■布裏で糸がからまる

<p>症状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・布の裏側で糸がグチャグチャにからんでしまう。 ・ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。 ・布地の裏側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。 
<p>原因</p>	<p>上糸が正しく通っていません。 ※上糸がミシンに正しく通っていないと、布を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができないため、かまの中に糸がたまっていき、糸がグチャグチャに絡んでしまいます。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">対処のしかた／確認すること</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 からんだ糸を取り除きます。取り除けない場合は、はさみで糸を切ります。 2 針板を取り外し、かまの周辺にたまった糸くずを取り除きます。(P.30「かまの掃除」参照) 3 上糸をミシンから取り外し、①～⑥に従って、上糸をかけ直します。 下糸のボビンを取り外した場合は、ボビンも正しい手順で内かまにセットし直します。(P.33「上糸がつる」＜対処のしかた／確認すること＞参照) <ol style="list-style-type: none"> ① 糸を通す前に押えを上げます。 ※押えが下がった状態では、上糸を正しく通すことができません。  <ol style="list-style-type: none"> ② プーリーを手前に回して、針を上上げます。 ※針を上になら上げていないと、正しく上糸を通すことができません。  <ol style="list-style-type: none"> ③ P.13 3 を参照して、糸こまをセットします。 ④ 両手で糸を持って、正しい経路で糸を通します。 ※糸が正しい経路で通っていないとぬうことができません。 糸こまから引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手でミゾに沿って糸を通します。  <ol style="list-style-type: none"> ⑤ てんびんにしっかりと糸をかけます。 ※てんびんに糸がしっかりとかかっていないとぬうことができません。 てんびんの右側から左側へ糸を通し、確実にてんびんに糸がかかっていることを確認します。  <ol style="list-style-type: none"> ⑥ P.13～P.14 を参照して針に糸を通します。

■糸調子が合わない

<p>症状</p>	<p>A 布地の裏に、ポツポツと糸が出ている。 B 布地の裏で、下糸が直線になる。 C 布地の裏の、ぬい目がゆるい、またはたるむ。 D 布地の表に、ポツポツと糸が出ている。 E 布地の表で、上糸が直線になる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="322 396 596 598"> <p>症状 A</p> </div> <div data-bbox="830 396 1104 598"> <p>症状 D</p> </div> </div>
<p>対処のしかた／確認すること</p>	<p>原因 1 糸が正しくミシンにセットされていない。</p> <p><上記の症状 A～C に該当する場合> 上糸が正しく通っていません。 上糸調子ダイヤルを標準に戻し、「布裏で糸がからまる」(P.34) を参照して糸をかけ直します。</p> <p><上記の症状 D、E に該当する場合> 下糸が正しくセットされていません。 上糸調子ダイヤルを標準に戻し、「上糸がつる」(P.33) を参照してセットし直します。</p> <p>原因 2 布地に合った糸や針を使用していない。</p> <p>ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。 布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり目とびの原因になったりします。 「布地と糸の種類による針の使い分け」(P.17) を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。</p>
	<p>原因 3 上糸調子ダイヤルの数値が適正でない。</p> <p>上糸調子ダイヤルを回して、適正な糸調子になるように調節します。 使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。 ※実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。</p> <p>【お願い】 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子ダイヤルを回しても糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="185 1497 720 1651"> <p>[布地の裏に上糸が見える場合]</p> <p>上糸調子ダイヤルを数字が大きくなる方向(右方向)に回します。(糸調子を強くします。)</p> <p>よわく ● ● ● 上糸調子 ● ● ● つよく</p> </div> <div data-bbox="740 1497 1275 1651"> <p>[布地の表に下糸が見える場合]</p> <p>上糸調子ダイヤルを数字が小さくなる方向(左方向)に回します。(糸調子を弱くします。)</p> <p>よわく ● ● ● 上糸調子 ● ● ● つよく</p> </div> </div>

■布がミシンに入り込んで取れない

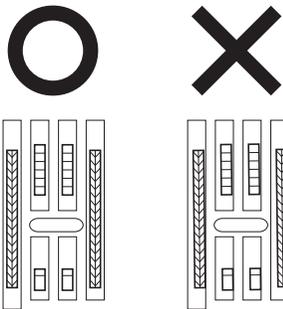
症状	布がミシンに入り込んで取れない。
原因	糸が針板の下でからんでいることがあります 以下の手順で、布をミシンから取り外してください。 手順通りに操作が進まないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。
対処のしかた／確認すること	<ol style="list-style-type: none"> 1 すぐにミシンをストップします。 2 電源を切ります。 3 上糸を切り、針を取り外します。(P.16「針を交換する」参照)  ※針が布に刺さっている場合は、プーリーを後ろに回して針棒を上げて、針を取り外してください。 4 押えレバーを上げて、押えと押えホルダーを取り外します。(P.17「押えを交換する」、P.30「かまの掃除」参照)  5 布を持ち上げ、布の下の糸を切ります。 ※ここまでの手順で布が取れる場合は、布を外してください。 6 ネジを外して針板を取り外します。  7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。  8 内かまを取り外します。 ※内かまに糸が残っているときは、取り除いてください。 9 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺や送り歯のまわりの糸くずやほこりを取り除きます。  ※内かまにキズがついている場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。 10 プーリーを手前に回して、送り歯を上上げます。 11 下図のように、△印と○印を合わせて内かまを取り付けます。  <p>※ここまでの手順で布が取れない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。</p>

12 針板を手前側からはめこみ、針板のネジ穴を針板取付け部の穴にあわせませす。

13 針板が送り歯と接触しない位置にあることを確認し、針板の左右のネジを指で軽くしめます。

【注意】

ネジをミシンの中に落とさないよう注意してください。



送り歯が針板と接触しない

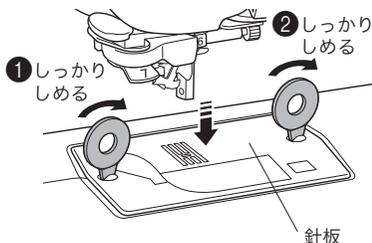
送り歯が針板と接触している

※プーリーを回し、送り歯が針板と接触せず、スムーズに動くときは、手順**14**に進みます。

※プーリーを回し、送り歯が針板と接触するときは、左右のネジをゆるめ、手順**13**からやり直します。

※上記の手順で針板を正しく取り付けられない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

14 左側のネジをしっかりとしてから、右側のネジをしめます。



15 押えホルダーを取り付け、ネジを確実にしめます。

16 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針の状態が悪い場合は、必ず新しい針を取付けてください。

※正しい針の見分け方、針を交換する方法はP.16「針を交換する」を参照してください。

【注意】

曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。

17 ミシンが正しく動くように「ミシンの動作を確認する」(P.32 参照)を続けて行ってください。

※上記の手順でミシンが正しく動作しない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

困ったとき一覧表

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートページ、ブラザーソリューションセンター (<http://support.brother.co.jp/>) の Q&A を確認してください。
それでも直らない場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお申し付けください。

■ぬう前の準備

こんなとき	原因	対処のしかた／確認すること	参照ページ
糸通し装置で糸が針穴を通らない	針の位置が正しくない。	プーリーの“しるし”を真上にセットしてください。	12
	糸通し装置への糸かけが正しくできていない。	糸通し装置への糸かけを正しくかけ直してください。	14
	糸通し装置の操作が正しくない。	正しい操作でやり直してください。	14
	針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しい針に交換してください。	16
	針の取り付けが正しくない。	針がストッパーに当たるまで差し込んでください。	16
	指定範囲外の針を使用している。	指定範囲内の針を使用してください。	14, 17
下糸がボビンにきれいに巻けない	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	下糸巻き案内に糸をかけ直してください。	8
	糸たて棒を後側に倒していない。	糸たて棒を後側に倒してください。	7
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまを正しくセットしてください。	8

■ぬっているとき

こんなとき	原因	対処のしかた／確認すること	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れてください。	5
	フットコントローラー（別売）を接続したまま、スタート/ストップスイッチを押している。	スタート/ストップスイッチを使ってぬう場合は、フットコントローラーを外してください。	6
	下糸巻軸が右のまま、スタート/ストップスイッチ、または返しぬいレバーを押している。	下糸巻軸を左に戻してから、ぬい始めてください。	10
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げてから、ぬい始めてください。	19
	電源プラグがしっかりと差し込まれていない。	電源プラグをしっかりと差し込んでください。	5
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押してください。	9, 19

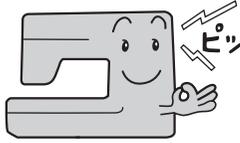
こんなとき	原因	対処のしかた／確認すること	参照ページ
ぬい目が飛ぶ	針が正しく付いていない。	針を正しくセットしてください。	16
	針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しい針に交換してください。	16
	布、糸、針の組み合わせが合っていない。	正しい組み合わせを確認してください。	17
	針板の下にほこりなどがたまっている。	送り歯・内かまの掃除をしてください。	30
	糸が正しくかかっていない。	糸を正しくかけ直してください。	12
布地が送られない	選択した模様と押えの組み合わせが合っていない。	適切な押えの組み合わせに直してください。	15
	針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しい針に交換してください。	16
	糸がからまっている。	上糸・下糸がからまっていないか確認してください。	34
		針板・内かまを掃除してください。	30
ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	ジグザグ押え<J>の固定ピンで、押えを水平にしてぬってください。(ELU58 シリーズのみ)	21	
上糸が切れる	上糸が正しくかかっていない。	上糸を正しくかけ直してください。	12
	糸がからまっている。	上糸・下糸がからまっていないか確認してください。	34
		針板・内かまを掃除してください。	30
	糸たて棒を後側に倒していない。	糸たて棒を後側に倒してください。	13
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまを正しくセットしてください。	13
	針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しい針に交換してください。	16
内かまにキズがついている。	針板・内かまをはずし、キズがないか確認してください。キズがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。	30	
下糸が切れる	糸がからまっている。	上糸・下糸がからまっていないか確認してください。	34
		針板・内かまを掃除してください。	30
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻き直してください。	7
	ボビンにキズがある。	ボビンを交換してください。	—
	下糸が正しくセットされていない。	下糸を正しくセットしてください。	11

こんなとき	原因	対処のしかた／確認すること	参照ページ
布地にしわがよる	糸が正しくかかっていない。	糸を正しくかけ直してください。	12
	針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しい針に交換してください。	16
	布、糸、針の組み合わせが合っていない。	正しい組み合わせを確認してください。	17
	糸調子が強すぎる。	上糸調子ダイヤルで、糸調子を弱くしてください。	20
針が折れる	針が正しく付いていない。	針を正しくセットしてください。	16
	針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しい針に交換してください。	16
	布、糸、針の組み合わせが合っていない。	正しい組み合わせを確認してください。	17
	糸たて棒を後側に倒していない。	糸たて棒を後側に倒してください。	7, 13
	布地を引っ張りすぎている。	手を布地に軽く添えてぬってください。	19
	選択した模様と押えの組み合わせが合っていない。	適切な押えの組み合わせに直してください。	15
回転が遅い、音が高い	針板の下にほこりなどがたまっている。	送り歯・内かまの掃除をしてください。	30
布がミシンに入り込んで取れない	糸が針板の下でからんでいる。	すぐにミシンをストップして、布を取り外してください。	36

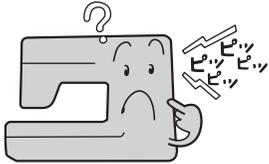
■仕上がり

こんなとき	原因	対処のしかた／確認すること	参照ページ
上糸がつる	下糸が正しくセットされていない。	下糸を正しくセットしてください。	33, 11
糸調子が合わない	上糸が正しくかかっていない。	上糸を正しくかけ直してください。	35, 12
	下糸が正しくセットされていない。	下糸を正しくセットしてください。	35, 11
	布、糸、針の組み合わせが合っていない。	正しい組み合わせを確認してください。	35, 17
	糸たて棒を後側に倒していない。	糸たて棒を後側に倒してください。	7, 13
	糸調子が強すぎる。	上糸調子ダイヤルで、糸調子を弱くしてください。	35, 20
	特殊な布、糸などを使用している。	実際に使用する生地の手切れで試しぬいをしてください。	35, 20
布裏で糸がからまる	上糸が正しくかかっていない。	上糸を正しくかけ直してください。	34, 12

電子音について

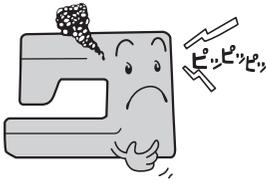


- 正しい操作をしたとき → “ピッ” と鳴ります。



- まちがった操作をしたとき → “ピッピッピッピッ” と鳴ります。

- ・ 押えレバーが上がっていませんか？
- ・ 下糸巻軸が右になっていませんか？



- モーターがロックしたとき → 3 秒間 “ピッピッピッ…” と鳴り続けます。

- ・ ミシンは自動的に止まります。
- ・ 停止後 7 秒経過すると、運転可能状態にもどります。
- ・ 必ずロックした原因を確認し、ミシンを操作できる状態にしてからスタート/ストップスイッチを押してください。
- ・ 糸がらみなどでロックした原因を直すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

本体仕様

仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅 37.9 × 高さ 26.4 × 奥行 17.2 (cm)
製品重量	4.2kg
ぬい速度	毎分 70 ~ 500 針
使用ミシン針	家庭用ミシン針 (HA × 1)
定格電圧 / 消費電力	100V (50 / 60Hz) / 17W
ライト	白色 LED

製品の保管について

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。

万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店またはお客様相談室（ミシン 119 番）にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- ・ 温度が著しく高くなる場所
- ・ 温度が著しく低くなる場所
- ・ 急激に温度が変化する場所
- ・ 湿気、湯気の多い場所
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- ・ 屋外や直射日光の当たる場所
- ・ ほこり、油煙の多い場所



お願い

製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製品打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（マシン119番）」にお問い合わせください。

お客様相談室

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明な場合はお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（マシン119番）TEL: **050**-3786-1134

050(ゼロ ゴー ゼロ)で始まる電話番号です。

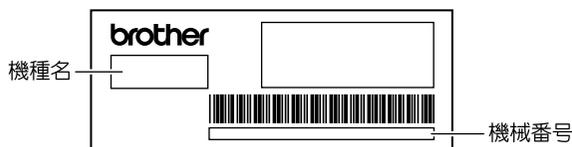
FAX: 052-824-3031

受付時間：

月曜日～金曜日 9:00～17:30

(祝祭日、ブラザー販売株式会社 休日を除く)

- お客様相談室はブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
マシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（マシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がございますので、ご了承ください。

ホームページ

- ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
<http://www.brother.co.jp/>
- ブラザーソリューションセンターでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。
<http://support.brother.co.jp/>

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

888-U50/U58
Printed in Vietnam



XF6954-301 ③